

カンボジア語辞典

(上)

坂本 恭章 著

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

2001

カンボジア語辞典

(上)

坂本 恭章 著

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

2001

Cambodian - Japanese Dictionary

(I)

by

SAKAMOTO Yasuyuki

Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa

(ILCAA)

Tokyo University of Foreign Studies

2001

凡例

I. 語の配列

1. 見出し

1. 1. 正書法上の同一語、すなわち文字で表記された形が同一の語はすべて一つの見出しのなかにまとめて記述する。すなわち、同音異義語を別の見出しにはしない。

1. 2. 見出しの配列順に関して注意すべき点は次の通りである。なお、エとオは語源的に関連のある語が互いに近くに配列されるように配慮したものである。

ア. 母音記号の後に用いられた「:」は子音文字扱いとし、配列順はすべての子音の後とする。

イ. [p] を表す足「・」は「i」の脚とする。

ウ. 足「・」は子音「h」の脚とする。

エ. 「:」は子音文字扱いとし、配列順はすべての子音文字の最初とする。

オ. 「・」と「ˆ」は付加記号として扱う。

カ. 付加記号のついている語は、語の中の付加位置が後のものを上位に配列する。

2. 連語。

2. 1. 連語は、いわゆる熟語の概念にとらわれず、それを構成する語の意味の理解を助ける用例になる句も採用する。

2. 2. 連語は原則として見出しの下に小見出しとしてかかげるが、連語そのものを見出しとすることもある。小見出しには頭に「※」をつける。

2. 2. 1. 連語ABは、見出しであるAB、および見出しAの下の小見出しABを意味記述の主とする。見出しBの下の小見出しABは従とし、用例等はつけない。

2. 2. 2. ただし、ABの意味を考慮して、見出しBの下の小見出しABを記述の主とすることもある。

ア. この場合の小見出しABには「※」ではなく「○」をつける。

イ. 見出しAの下の小見出しABには、意味の記述の末尾に「(→見出しBの中)」を付記し、見出しBの下のABが記述の主であることを示す。また、意味の記述を略することもある。

2. 3. 小見出しの下に孫見出しをもうけ、「△」で示すことがある（これについては後述）。

2. 4. 連語としての判定

本書における「連語」はいわゆる熟語のほかに複合語と句を含む。連語の構成要素の間に「・」を入れてその構成を明らかにする。しかし、複合語のうち次に示すものは連語とはしない。

2. 4. 1. 借用語

ア. パーリ語・サンスクリット語からの借用語は、ABの要素であるAとBの配列順がクメール語文法による配列順とは異なる場合は連語としない。これは、ABという複合語はパーリ語・サンスクリット語として生成され、それ全体がひとつとしてクメール語に借用されたものと考えられるからである。なお、真の意味での借用ではなく、借用された要素を使用してパーリ語・サンスクリット語文法に従って造語されたものも連語とはしない。

イ. その他の言語からの借用語は、タイ語からの借用語を除き、原語では複数の要素からなる場合でも連語とはしない。これは、ネイティヴスピーカーの意識に従ったものである。一方、タイ語からの借用語を連語とするのは、やはりネイティヴスピーカーの意識に従ったのと、借用語が比較的多いので、それらの要素を明らかにしておくのが利用者にとって便利であるからである。

2. 4. 2. クメール語の接辞を使用した派生語は連語とはしない。

3. 連語の記載位置と配列順

3. 1. 連語AB（以下、「AB」を使用）のAが単独でも使用できる語である（以下、

「独立」を使用) 場合は、見出しAの下の小見出しにする。

3. 2 ABのAが単独では使用できない語(以下、「非独立」を使用)の場合は、

ア. ABを見出しにする。

イ. 連語がAB、ACというように複数ある場合は、

a. アと同様に見出しABと見出しACとを立てる。

b. さらに、見出しAを立て、「(エ)→AB。→AC」とすることにより、Aを頭につく連語の見出しが複数あることを明らかにする。

ウ. しかし、連語が多数ある場合には、(新しく立てた)見出しAは「(エ)」とのみ記述して、それらの連語を小見出しにすることにより、連語の見出しが多くなるのを避けることもある。

エ. ABのAと、ACのAの間に共通の意味が認められる場合には、(新しく立てた)見出しAは「(エ)」の後にその意味を記述し、ABとACとは見出しAの下の小見出しにする。

3. 3. Aは単独で使用されるが、その場合のAと、ABとして使用された場合のAとの間に意味的関連がない場合(以下、「異なるAが存在する」を使用)には、

ア. 見出しABを立て(=3. 2. ア)、さらに(異なるAである)見出しAの意味記述の末尾に「(エ)→AB」を付加して、この見出しAとは別の見出しABが存在することを示す。

イ. 上記の3. 2. イ、ウ、エに相当する場合は、新しい見出しAは立てずに、アと同様に(異なるAである)見出しAの意味記述の末尾に「(エ)(意味)①→AB。②→AC」などを付加する。

3. 4. 連語ABのBについては上述のAに準じる。ただし、Bが上記3. 2. アに相当する場合は「B(エ)→AB」を立てて、Bを検索することによっても見出しABまたは見出しAの下の小見出しABの存在を知ることができるようにする。

3. 5. ABの記載法のまとめ

	見出し	小見出し
ア. Aは独立	A	※AB
イ. Aは非独立		
a. (原則)	AB	
b. (複数ある)	A(エ)①→AB。②→AC	
	AB	
	AC	
c. (多数ある)	A(エ)	※AB ※AC ※AD
d. (意味がある)	A(エ)(意味)	※AB ※AC
ウ. 異なるAがある	A(品詞)(意味)(エ)→AB	
	AB	
	(または) A	※AB
エ. Bが非独立	B(エ)→AB	
	AB	
	(または) A	※AB

3. 6. ABが動・植物名の場合には、単独のAと連語ABのAとの間の意味的関連の有無、すなわち、Aは独立であるのか、それとも異なるAが存在するのであるかは不明のことが多い。Bについても同様である。このような場合のAあるいはBは独立であるとみなす。

3. 7. 小見出しの配列順

ア. 見出しAの下の小見出しは、AB、AC、AD、・・・XA、YA、ZAというように、まずAを第一成分にもつものを並べ、その後他の語を第一成分にするものを並べる。B、C、D、X、Y、Zの配列順は見出しの配列順に従う。

イ. 反復記号 η が先行する1語ではなく2語以上の反復を表す場合は括弧内に「 η =反復

語]を示す。また、先行する1語の一部分を表す場合もこれに準じる。

例。ABC γ = ABC C
ABC γ (γ = BC) = ABC BC
ABC γ (γ = c) = ABC c (cはCの一部)。

反復記号の配列順位は、それが表す語のいかにかわらず、全子音の前とする。

ウ。小見出しにも数字は使用しない。

4. 3語以上からなる連語は、その連語の直接構成要素に従って記載する。

4. 1. A + BC

4. 1. 1. Aは上記の3に従う。

4. 1. 2. BCが独立の場合

ア。見出しBの下の小見出しBCの下の孫見出しABCとし、頭に△をつける。

イ。BCが見出しになっている場合は、その下の小見出しにする。

ウ。見出しCの下には記載しない。(見出しCの下にある小見出しBCは記述の主ではないから用例や孫見出しをつけない。)

エ。見出しCがない場合は空見出し「C(エ)→ABC」を作る。

4. 1. 3. BCが非独立の場合。

ア。見出しBおよび見出しCの下に小見出しBCを作り、「BC→ABC(意味)」とする。

イ。見出しBがない場合は、空見出し「BC(エ)→ABC」を作る。

ウ。見出しCがない場合は、空見出し「C(エ)→ABC」を作る。

4. 1. 4. 異なるBCが存在する場合。

見出しBおよび見出しCの下の(異なるBCである)小見出しBCを「※BC①(意味)②(意味)③→ABC(意味)」というようにする。

4. 1. 5. 上記で「→ABC(意味)」となっているものは、ABCが同一見出しの中に存在する場合は意味の記述はしない。

4. 2. AB + Cの場合。

4. 2. 1. 見出しA、見出しB、見出しCの下の小見出しにする。

4. 2. 2. ABC、ABD、ABE、ABFというようにABを共有するものが多数存在する場合は、これが見出しAの下にも見出しBの下にも全く同じ順で現れることになるので、見出しBの下の小見出しABに「AB+〜については見出しAの中を見よ」と付記し、ABC、ABD、ABEなどを記載しない。

4. 2. 3. 見出しABがある場合は小見出しABCにする。

4. 2. 4. 見出しBがない場合、および見出しCがない場合はそれぞれ空見出し「B(エ)→ABC」、「C(エ)→ABC」を作る。

4. 3. AB + ACという形の連語。

ア。見出しAの下は、

a. 小見出しABACにする。

b. さらに、空小見出し「AC→ABAC。」を作る。

イ。見出しBの下は小見出しABACにする。

ウ。見出しCの下は小見出し「AC→ABAC(意味)」にする。

4. 4. 配列の順はすでにABで述べた通りであるが、

ア. ※AB

※ABC

※ABD

で、ABとABCのように上下に隣接しているものが同義の場合は、この2つをまとめて

※AB(C)

※ABD

と略記する。

イ。同様に、

※ABC

※A C

※A D

のA B CとA C、が同義であり、かつ混乱の恐れがない場合には、

※A (B) C

※A D

と略記することもある。

ウ. また、

※A B

※A C B

※A D

のA BとA C Bとが同義であり、かつ混乱の恐れがない場合には、

※A (C) B

※A D

と略記することもある。

4. 5. 小見出しB Cに孫見出しがA B Cのひとつしかなく、かつこのA B CがB Cと同義の場合には、「※B C = A B C (意味)」とし、孫見出しは立てない。

II. 同義語と空見出し

1. 空見出しの使用は利用者に検索を2度強いることになり、望ましくない。従って、AとBが同義語の場合は、見出しAには「A (品詞) = B. (意味)」、見出しBには「B (品詞) = A. (意味)」というように互いに同義語の存在の記述はするが、空見出しにはしないのを原則にする。

2. しかし、同一見出し語の下にある同義の連語には空見出しを使用する。これらの連語は互いに近くに配列されているのであるから、検索の二度手間のデメリットよりも紙幅の節約のメリットの方が大きいからである。

a. 同義の連語A Bと連語A Cは、見出しAの下では、「A B = A C. (意味)」と空見出し「A C = A B」とし、見出しBの下では「A B = A C. (意味)」、見出しCの下では「A C = A B. (意味)」とする。

b. 「A B → C A B」は、C A Bが同一見出しの下に存在する場合は、意味は記述しない。

3. 複数の見出しが同義でかつ小見出しが存在する場合は、空見出しを使用して小見出しの記述の重複を避け、紙幅を節約する。従って、小見出しがないものは原則として空見出しにしない。

4. 見出しAに小見出しがA Bのひとつしかなく、それがAと同義である場合は、「A (品詞) = A B. (意味)」として、Aの記述中にとりこみ、小見出しA Bは立てない。小見出しがB Aでも同様である。

5. 空見出しにする方が(必然的に他の見出しを見ることになるので)利用者により多くの情報を伝えることができる場合は空見出しにする。

5. 1. 正書法が関係する同義語

同義の語が、表記Aのほかに異なる表記B(以下、異体と呼ぶ。いわゆる異音同義語より広い)で書き表されることがある。これらは以下のように処理する。

5. 1. 1. AもBも同音を表す場合(クメール文字は表音文字であり、複数の異なる表記が同音を表すことがある。)

ア. A、Bのいずれも正しい表記とされている場合には、多用されるAを主とし、Bは空見出し「B = A」にする。一方、見出しAは「A (語源) = B. (意味)」というように、すべての意味の記述の前(語源があれば、語源の後)にこの異体を記述する。これは、クメール文字の表記法の特徴を知れば、本書で収録していない表記による語にも対処できるからである。

ただし、最終音節でない音節の末子音[m]を表す2つの方法による異体Bは、「B = A」とはするが、見出しAには「= B」を記述しない。それは、この表記方法は規則的なことであって辞典中に記述する必要性がないからである。

注意。出版がそれほど盛んではなかった時代には、同音を表していさえすれば、どのような表記法も許されていた。しかし、1960年代後半になって、出版が盛んになり始めると、出版物は「カンボジア語辞典」で採用されている表記法に従うようになった。（ある出版業者によると、これは法的規制ではなく自主規制であるとのことであったが、その真偽は不明。）しかし、本書は、そのような規制が行われる以前の資料（出版物も手書したもの）に基づいている部分が多いので、「カンボジア語辞典」の表記法が正しい、という考えは採用しない。いつの日か、正式に正書法の整理統一が行われたなら、改訂の必要がある。

イ. 語源等の理由でBは誤りであるとされる場合には、見出しBは「B=A（Aが正しい）」とする。Bに複数の意味があつて、その一部の意味に対応する表記だけが誤りである場合には、たとえば「B（名）（意味）。（動）（Aが正しい）」というように記述し、別見出しにはしない。見出しAにはBについての記述をしないのを原則にするが、Bが多用される場合には、「=B（Aが正しい）」を付記することもある。（なお、あえて「誤り」であるBを収録するのは、実際にはそのような「誤り形」が頻繁に使用されるので、「正しい形」を収録するだけでは利用者には不便だからである。）

5. 1. 2. AとBが同音を表していない場合。

ア. BがAの俗な発音を表している場合には、見出しBは、「B（Aの俗）」とし、見出しAには、「A（語源）=B（俗）。（意味）」と記述する。なお、ここで言う「俗な発音」は「書き言葉」に対応する「話し言葉」とは同じではない。（話し言葉では俗な発音が現れることが多いので、それを知ることは重要である。また、たとえば、カンボジア標準語とタイ国のスリン方言との音韻対応の分析には、「 yn 「来る」、 yn 「取る」」の俗音が重要である。）

イ. アの場合、この俗な発音が誤りとされている場合には、5. 1. 1. イに従う。（この「誤り」の大部分は、外国人の発音を写したものである。）

ウ. BがAの方言である場合には、見出しBは「B（Aの方言）」とし、見出しAは、アに従う。（なお「俗な発音」と「方言」との境界は明確でなく、今後の研究・調査が必要である。）

エ. BがAの古語の場合は、見出しBは「B（古）=A」、見出しAは「A（語源）。=B（古）。（意味）」とする。稀用語は（稀）を使用する以外はこれに準じる。

オ. AもBも正しい発音で、かつその相異がクメール語の歴史的音韻変化を反映している場合は、見出しBは空見出し「B=A」とし、見出しAは「A（品詞）=B。（意味）」というように、品詞の記述の後にBについて言及する。ただし、（品詞）が複数ある場合には、「A（語源）。=B。（品詞1）（意味）（品詞2）（意味）」というように、最初の（品詞）の直前に出し、「=」の前に「。」をおく。これは、クメール語の音の歴史的変化の参考資料としても利用できることを意図するものである。

5. 2. 語源が関連する同義語

5. 2. 1. 借用語Aの語源である原語がさらにクメール語で異なる音形になって借用されていることがある。このような同一語源からの同義の借用語B、Cなどはすべて「B=A」「C=A」と空見出しにし、見出しAは「A（語源）=B=C。（意味）」というように記述し、Aを見れば他の借用形もすべてわかるようにする。

5. 2. 2. 同一語源からの借用語で音形の異なるAとBが同義ではない場合は、参考のため見出しAの意味の記述の末尾に（→B）、見出しBの意味の記述の後に（→A）を付加する。

5. 2. 3. 借用語Aと同義の借用語Bが語源を異にする場合は、空見出しに「B（語源）。=A」と語源を記述する。Aは5. 1. 2. エに従う。これは、パーリ語からの借用語とサンスクリット語からの借用語には同義語が多く、その同義関係を理解しておくことは本書に収録されていない語、あるいは新語の意味の推測に有用であるからである。

5. 2. 4. 接辞による派生語の語根については、ここで述べた語源としての扱いをしない。記述があまりにも繁雑になるからである。代わるものとして、同一語根からの派生語のリストを巻末の付録にする。

Ⅲ. 語源および古代クメール語

1. 見出しに記述されている語源・古代クメール語は、(エ)および(小見出しを含めて)動植物名には適用されない。

2.

ア. 外来語はの語源は「(原語)」の形で記す。

イ. クメール語の派生語は「(<語根)」の形で記す。

注意. 語源としてパーリ語・サンスクリット語を記したものの多くは、はたして真の借用語であるのか、それとも(日本語の「飛行機」のように)借用語を要素としてクメール語内部で造語したものであるかは不明である。したがって、語源として記してあるのは、厳格な意味での語源ではなく、その語の意味を理解する上での参考のためである。

ウ. 見出し語が連語ABであり、その語源が連語abである場合には、(ab)と記し、連語でない場合には(a. b)と記す。また、a、bのいずれかを欠く場合は、(a. -)、(-. b)と記す。

3. 略語

c.	中国語(方言については未特定)
e.	英語
f.	フランス語
i.	インドの言語(非アリア語も含む)
j.	日本語
l.	ラオス語
m.	マレーシア語。インドネシア語
ok.	古代クメール語
p.	パーリ語。
pr.	プラークリット語
ps.	パーリ語あるいはサンスクリット語(両言語で同一形)
s.	サンスクリット語
t.	タイ語(タイ文字を使用し、「:」の後に発音を示す)
v.	ベトナム語

4. 記号

ア. 「{}」 注釈・解説

イ. 「<」 語源として記した語の由来をしめす。即ち、

a. 直接の語源である語自体が借用語である場合の語源。

b. パーリ語・サンスクリット語の場合には、直接の語源である語形が活用形・曲用形である場合の元の語根・語幹。この場合、活用形・曲用形が文法上正しくないこともあるが、そのことについては述べない。

5. パーリ語・サンスクリット語からの借用語は、その原語がすでに古代クメール語にも現れる場合にはその形を(ok.)として示す。ただし、その形が原語と同形の場合は(ok.)とのみ記す。古代クメール語中に複数の形で現れる場合には、「~も」としてその形を示す。

6. 本来のクメール語は、その古代クメール語形も記す。転写法はサンスクリット語のそれに従う。

7. 借用語の原語と古代クメール語についてはその意味が現代語と異なる場合には、「」の中にその意味を示す。なお、古代クメール語で、「:」を使用して、(ok.:人名)などがあるのは、人名として使用されているので意味が確定できず、したがって、対応が確かとは言えないことを示す。

古代クメール語の形が複数ある場合の意味記述、あるいは、疑問符は、それより前の形に共通である。

例. (ok. A:地名、B、C:人名)は、Aは地名、BとCは人名である。

例. (ok. A、B?)はA、Bとも疑問。(ok. A?、B)はAのみ疑問。

8. タイ語からの借用語であるか否かが明らかではないものは、(cf. t.)としてそのタ

イ語の語を示す。なお、すでに古代クメール語に存在しているため借用語である可能性の低い語や、タイ語の音韻史などを考慮すると、タイ語からの借用語ではなくむしろタイ語に借用された可能性が高い語にも示す。しかし、クメール語からタイ語に借用されたことが明らかなのは除外する。

9. 中国語からの借用語は、直接中国語から借用されたのか、タイ語あるいはベトナム語を経由しているのかが不明のものが多い。これらは (c f. t. ~, c f. v. ~, c f. c. ~) というように列挙する。

10. 語源の記述の有効領域は直近左の記号の範囲である。

例。「A (語源) (意味)」は見出しA全体。(ただし、意味記述中の動植物名と(エ)は含まない。)

「(品詞) (語源)」はその品詞のみ。

「(品詞) ①(意味)。 ②(語源) (意味)」は②のみ。

11. (エ)の語源、あるいは古代クメール語は、「→」で示した参照先の(連)語が見出し語になっていない場合にのみ記述する。

12. 見出しABで語源「b」のみが記されている場合は、記述が簡略化されていることがある。それは、見出しBでの記述と重複するからである。

13. 「A = B」という空見出しで、

ア. A、Bともに外来語で語源が同じ場合にはAには語源の記述をしない。

イ. A、Bともにクメール語の派生語で接辞が同じ場合にはAには語根を記述しない。

14. 小見出しの語源は、その小見出し全体がタイ語からの借用である場合にのみ、語源を記述する。

15. 語源のパーリ語とサンスクリット語の記述方法

ア. 語源が、パーリ語とサンスクリット語の両方の可能性がある場合

a. 語形が両言語で同一の場合は、p s. とする。

b. 語形が異なる場合は (p. ~. s. ~.) というように2つとも記す。

イ. 複合語は、その要素が他の借用語にも頻繁に現れる時には、繁雑にならない範囲でその成分の間に「+」を入れる。特に接辞は繁雑すぎないようにするが、音変化が生じている場合には「+」を入れて音変化前の語形を示す。

ウ. 複合語の語源

a. すべての要素がパーリ語もしくはサンスクリット語だけの場合は最初の要素の前のみ p.、もしくは s. と記述する。

b. すべての要素がパーリ語もしくはサンスクリット語だけで、それが両言語で同形ならば、p s. とする。

c. すべての要素がパーリ語もしくはサンスクリット語だけであるが、そのパーリ語とサンスクリット語で(全部または一部)形が異なる場合は、(p. ~+~. s. ~) とし、パーリ語の形は全て記し、サンスクリット語の方はパーリ語と形の異なる要素のみを記す。

d. 要素がパーリ語とサンスクリット語の混合である場合は、(p. ~+~+~+s. ~+~+p. ~) というように、言語が変わるたびにその言語を示す。

エ. 成分の間でサンディーによる音変化がある場合は、変化前の形のみを示す。

IV. 意味の記述方法。

1. 略語

1. 1. 略語

(名) 名詞

(形) 形容詞。クメール語文法では、動詞と形容詞とを区別する必要はないが、一般常識にしたがって、意味上動作用をあらわすものを「動詞」、状態を表すものを「形容詞」とする。

(連体) 連体詞。被修飾名詞の前におく。

(動) 動詞。形容詞を参照。

(副) 副詞。被修飾語の後におく。擬態語も含めるが(音)を参照。

- (助動) 助動詞。動詞の前におく。否定できる。
- (連用) 連用詞。動詞の前におく。否定できない。
- (音) 擬音語。笑い声のように意識せずに発する声も含める。
擬音語と擬態語との両方に使用される場合は(音)とする。
- (間) 間投詞。「こら。おい」のように意識して発する声。
- (文頭) 文頭詞。文頭におかれる。
- (文末) 文末詞。文末におかれる。
- (助) 助詞。上のいずれにも属さないものを一括。
- (モ) モルフェーム。接辞のような造語成分。それ自体も意味をもつ。
- (エ) エレメント。連語としてしか使用できない語。しかし、利用者の便宜のため、語の一部であるもの、すなわち一見連語に見えるが実はひとつの合成語であるものを示すのにも使用する。(ただし、パーリ語・サンスクリット語の明らかな合成語の成分は含めない。)
- (書) 書き言葉
- (話) 話し言葉
- (王) 王族用語。王族に対して使用する語。
- (坊) 僧侶用語。僧侶に対して使用する語。
- (俗) 俗語
- (下品) 下品語
- (乱暴) 乱暴語
- (蔑) 蔑視語
- (罵) 罵り語
- (占) 占いで使用する語
- (呪) 呪術で使用する語
- (比) 比喩的意味。

その他(医学)(数学)など容易に理解できるものは省略。

1. 2. 略語の支配領域は、その略語と同位の略語が次に現れるまでである。
例。「(名)(蔑)(意味)。(動)(意味)」の(名)の支配範囲は(動)の前までである。したがって(蔑)は(名)の範囲にのみ有効である。
「(蔑)(名)(意味)(動)(意味)」の(蔑)は(名)と(動)に有効である。

2. 記号

- ア. →A Aを見よ。
- イ. c f. 参考にせよ。
- ウ. 「 」 意味の記述中に現れるクメール語の意味。語源中の意味の記述。
- エ. / 記述を簡略化するために使用。「仕事が終わる」+「仕事が完成する」=「仕事が終わる/完成する」。
- オ. ()
 - a. 訳語ではなく解説。例。(手袋の手首を覆う部分)。
特に「~の一種」とすべきものは(魚)(鳥)(菓子)(ざる)(へび)などのように「の一種」を省略する。
 - b. 意味の理解を助けるために使用。その中の記述は「/」に準ずる。
「(人が)歩く」+「(道を)歩く」=「(人が、道を)歩く」。
 - c. ()内の説明は次の訳語には繰り返して記さない。
「(大勢が)泣く」+「(大勢が)悲しむ」=「(大勢が)泣く. 悲しむ」
 - d. ()内の説明は、例えば、「無理に(ほほえむ)」の「ほほえむ」は単なる例である。すなわち、この「無理に」は他の語、たとえば「笑う」にも使用できる。(下のカを参照)
 - e. ()を使ったために、たとえば、(形)の中の訳語で「愛想がよい」とすべきを「愛想よく(客を迎える)」、(動)の中で、「あわてる」とすべきを「あわてて(逃げる)」というように、()内の語句とつなげるために語形変化をさせている場合がある。
- カ. (←)

- a. 訳語の補足。例。死ぬ (←人間に使うと無礼)。
- b. 「死ぬ (←人間が)」はこの語は人間にのみ使用することを示す。
- c. ただし、動植物名の補足には単に (薬用) というように「←」を省略する。
- d. (←) の適用範囲は、A。B。C (←) はCのみに適用。
A。B。C。 (←) はAとBとCとに適用。

キ. (=)

- a. 訳語の解説。例。マヤー妃 (=シャカの母)。
- b. 熟語の文字どおりの意味を示すのにも使用する。
例。危険をおかす (=首で罫を試す)。
- c. (下記3。4を参照)
- ク. { } 誤解を防ぐために、意味記述中のかな語の漢字、あるいは漢字の読みを示す。
例。いかり { 錨 } 「怒り」ではない。
金 { かね } 「きん」ではない。

ケ. ~ 他の語の存在を示し、クメール語と訳語との位置が対応する。~が複数必要な場合はA、Bを使用して対応を明らかにする。

3. 意味の記述についての注意

3. 1 動植物の学名は筆者には確認する力がないので、動物園や公園での表示を採集した若干のものを除いて、すべて次のものをそのまま引用し、出典を略語で示す。今後の動物・植物学者の研究を期待する。

(S) は Lewitz S. and Rollet B. (1973)

(H) は Headley, Robert Kirk (1977)

タイ語が記してあるものは、*กาญจนา นาคสกุล* (1983) を参考にタイ語の学名を記したものである。

3. 2. 見出しに記述されている意味は、(小見出しを含めて) 動植物名にも適用されるとは限らない。

3. 3. 見出しが (植) (鳥) (魚) などで小見出しもそうである場合には、小見出しの (植) (鳥) (魚) は省略する。

3. 4. 「=」は利用者の二度手間を避けるためにも使用する。

ア. 見出しBで「(エ) → A B = C D。」とあるのは、「このBは連語A Bの形で使用されるが、そのA Bは空見出しになっているからC Dを見よ」という意味である。

イ. また、パーリ語からの借用語Aが空見出しで「A = B. = C」となっているのはAに対応するサンスクリット語からの借用語はBであり、そのBは「B = C」という空見出しになっていることを示す。Aがサンスクリット語からの借用語でも同じである。

ウ. しかし、パーリ語・サンスクリット語からの借用語で「A (Bの女性形)」と記述したものは、Bが「B = C」という空見出しになっていても、Aに「= C」は付記しない。繁雑に過ぎるし、たいいていの場合CとBは近くに記載されているからである。

V. 音声記号

1. 母音

		緊喉母音			弛喉母音		
		前舌	中舌	後舌	前舌	中舌	後舌
短母音	狭	i	u	u			
	中広	e	ə	o	è	ə	u, ò
	広	ɛ	a	ɔ	è		wò
長母音		i:	u:	u:			
		e:	ə:	o:	è:	ə:	ò:
			a:	ɔ:	è:		ò:
二重母音		iə	uə	u'o			
			ae	ɔə	èə		
			aə				
			ao				

2. 子音

	唇齒音	両唇音	齒莖音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
無声閉鎖音 (無氣)		p	t	c	k	ʔ
無声閉鎖音 (有氣)		p'	t'	c'	k'	
有声閉鎖音		b	d			
鼻音		m	n	ɲ	ŋ	
弱摩擦音	v			y		
ふるえ音			r			
両側音			l			
摩擦音			s			h

(この他、外来語に [f])

VI. 主要参考文献

- Headley, Robert Kirk (1977) : *Cambodian-English Dictionary*, The Catholic University of America Press, Inc.
- Huffman, Franklin E. and Proum Im (1978) : *English-Khmer Dictionary*, Yale Linguistic series
- Lewitz S. and Rollet B. (1973) : 'Lexique des noms d'arbres et d'arbustes du Cambodge', BEFEO 60, pp.117-62.
- ជួន ណាត (1967-1968): *វិទ្យាសាស្ត្រភាសាខ្មែរ ភាគទី១, ភាគទី២*, l'Institut Bouddhique
- กาญจนา นาคสกุล (1983) : *พจนานุกรมไทย-เขมร(เล่ม๑, ๒)*, จฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย
- 富田竹二郎 (1990) 『タイ日辞典』 (改訂版) 養徳社
- Tem Smitinand (1980) : *Thai Plant Names*, Royal Forest Department, Bangkok
- 林弥栄・古里和夫 (1986) 『原色世界植物大図鑑』 北隆館
- 佐竹義輔 (1968) 『植物の事典』 (増補) 東京堂

首 [ko:] (名) ①(人/動物/びんの、手、足) 首。②喉。③襟。④~口(食べる、しゃべる)。⑤A(←番号として)。(動)(国/村/寺/家庭/グループ/財産/膿/結石を)作る(←集まって、集めて)。築く。建設する。(エ)→*ਖ·ਕ·(က)*。*ਠੇਡੀਂਸ਼·ਕੁੰਡ·ਕਠਾਰ·ਠੰਡਾ·* 首にぐりぐりができる。*ਠੰਡਾ·ਕ* 喉が痛む。*ਠੰਡਾ·ਠੰਡਾ·ਠੰਡਾ·ਕ* 痰が喉に引っ掛かる。*ਠੰਡਾ·ਠੰਡਾ·ਕ* 喉の具合が良くない。
ਕ·ਕੈਂਡ 生じる。(村/寺が)できる。(事件が)起こる。(アイデアが)生れる。
ਕ·ਕੰਠਕ 瘤/甲状腺腫のできた首。
ਕ·ਕੁੱਕ 曲がった首。
ਕ·ਕੁੱਠ 曲がったままの首(←のびない)。
ਕ·ਕੁੱਠਕ 曲がったままで真っすぐにならない首(←寝違いも)。
ਕ·ਕੁੱਕ →*ਸਯ·ਕ·ਕੁੱਕ* クジャクの首の毛。
ਕ·ਕੁੱਕ (胆石などの)結石ができる。
ਕ·ਕੁੱਖ (頸の口と胸の間の細くなった部分)。
ਕ·ਕੁੱ 化膿する。
ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱ (できもの)(←膿が出る)。
ਕ·ਕੁੱ →*ਖਾ·ਸਾਂਝ·ਕ·ਕੁੱ·ਯੰ·ੳ·ਠੰਡਾ·ਠੰਡਾ·* *ਠੰਡਾ·ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱ* (←謎々、答は*ਸਾਂਝੀਠ*)。
ਕ·ਕੁੱਠਾ 櫛の柄。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 水滴ができる。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 沈殿する。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 足首。*ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ* 足首をくじく。
ਕ·ਕੁੱਠ ①びんの首。②(鳥)(←水辺に巣を作る)。

ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ →*ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ*。
ਕ·ਕੁੱਠ 手首。
ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠ 手首の骨。
ਕ·ਕੁੱਠ (軍を)動員する。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ ①島ができる。②国を作る。新天地を開く。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ グループ/集団/派閥をつくる。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ (背広の)襟の折り返し。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕੁੱਠੀਂਸ 財産を築き上げる。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ →*ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ*。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 新しく村を作る。村を建設する。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ →*ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ* 長靴。ブーツ。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 王朝を興す。
ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 王朝の祖。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ (橋/建物/町を)建設する。(学校を)創設する。(村/寺/家庭/名声を)築く。(善行を)積む。
ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 建設資材。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ →*ਸੁੱਕ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ* 馬のたてがみ。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 子宮頸部。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ (稲の穂の付け根の部分)。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕੁੱਠੀਂਸ (手袋の腕を被う部分)。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 襟。
ਠੰਡਾ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 襟首をわしづかみにする。
ਠੰਡਾ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 襟をくる。
ਠੰਡਾ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ 襟ぐりをなおす(?)。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ →*ਠੰਡਾ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕੁੱਠੀਂਸ* 他人をだます
 ような知識は自分に禍する。
ਕ·ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ =*ਕੁੱਠੀਂਸ·ਕ* (俗)。うなじ。襟足。

(←耳の下の部分も含む)。

※*ကဠာသံက* *ブローチ*。

※*ကဗ်က* 首を折る (=殺す)。

※*ကဗ်က*・*ကဗ်*・*ပြေခိ* → *ပြေဗ်ကဗ်က*・*ကဗ်*・*ပြေခိ* 何回も何回も腹が痛くなる程笑う。

※*ကဗ်က* 斬首する。

※*ကလက* 襟。

※*ကျိက* 肩を組む。

※*ကျိဗ်က* 首をかしげる。

※*ကြဗုဗ်က* 襟をわしづかみにする。襟首をつかむ。

※*ကြဘိတ်က* ネクタイ。

※*ခးက* 喉が乾いている (←しゃべりすぎても可)。

※*ခွာက* → *မဒး*・*သွာ*・*ခွာက* 大慌てに慌てて。

※*ခွာက* 首飾り。ネックレス。

※*ကလ်က* うなじ。首の付け根。

※*ခိတ်က* 喉仏。

※*ကြိတ်က* (いやいやと)首を横に振る。

※*ခိတ်က*・*ခိတ်က* ぐっと首をもたげたままじっとしている。

※*ဗိတ်က* ①首を縛る/絞める (←ロープなどで。手を使うのは*ဗိတ်ကဗ်က*)。②首をくくる/吊る。③絞首刑にする。

※*ဗိတ်က*・*ပြေခိ* 首を縛って吊す。

※*ဗိတ်က* → *ဗိတ်က*・*ဗိတ်က*・*ဗိတ်က* ①気のない。上の空 (の返事。で返事する)。②まずそうに (食べる)。

※*ဗိတ်ကဗ်က* 手で首を絞める (cf. ロープなど

を使うのは*ဗိတ်က*)。

※*ပြေခိက* 縛り首にする。

※*ပြေခိက* 襟首をつかまえる。

※*ပြေခိက* → *ပြေခိ*・*ပြေခိက* 招きもしない客がどやどやと大勢やって来て迷惑をかける。

※*ပြေခိက*・*ပြေခိ* ① (大勢集まって) 他を踏んづけるようにしてひとつのものを奪い合って食べる。② (賄賂を要求するなど) 何でもやりたい放題をして利益を得る。

※*ပြေခိက* 肩車に乗る。

※*ပြေခိက* → *ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ* 口も首も震える (←怖くて。怒って)。

※*ပြေခိက*・*ပြေခိ* 首をのばしてのぞく/見る。

※*ပြေခိက* 首。

※*ပြေခိက* → *ပြေခိ*・*ပြေခိ* 喉から出そうになるまで食べる。

※*ပြေခိက* 喉もと。喉頭。首の根っこ。

※*ပြေခိက* → *ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ* = *ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ*。意見/話/気/うまが合う。

※*ပြေခိက* 首を寝違える。

※*ပြေခိက* → *ပြေခိ*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ* = *ပြေခိ*・*ပြေခိ*。あちこち差し障りがあるので言えない。

※*ပြေခိက* (ネックチーフ、*ပြေခိ*、*ပြေခိ*などを) 首や肩にかける。

※*ပြေခိက*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ* (布などを首に掛け、その両端を前又は後ろに垂らす)。

※*ပြေခိက*・*ပြေခိ*・*ပြေခိ* (布などを肩に掛け、一端を前に他端を後ろに垂らす)。

※*ပြေခိက* 肩車に乗らせる。

※*ပြေခိက* ペンダント。

ធ្មត់ក៏មានកម្រិតរបស់វាដែរ 我慢にも限度がある。 ឆឹងលាក់ក៏មិនជិត 隠そうとしても隠しきれない。 អ្នកណាក៏មិនអាចគេចជិត 誰も避けることはできない。 សូម្បីតែមួយជ្រុងសេនក៏បងគ្មានដែរ ただの1銭も僕は持っていない。

※ក៏ដាប់ → (បើ) មិនយូរក៏ដាប់ いずれれ。 早晚。

※ក៏ដែរ も～。 ខ្ញុំក៏ទៅដែរ 私も行く。 តែបញ្ចេញច្រើនបញ្ចេញក៏ច្រើន。 តាមនោះដែរ 入れたが多ければ出すのも多いよ。

※~ក៏ដោយ ~であろうと(なからうと)。
សោតណាគ្រូស្នាប់ក៏ដោយខ្ញុំមិនខ្លាចទេ たとえ死ななければならなくなろうとも私は恐れない。

△ដូចម្ដេចក៏ដោយ どう/どのようにしても。 どのようなことであっても。

△ណាក៏ដោយ いずれにせよ。

△ថ្ងៃបើក៏ដោយ ~にもかかわらず。

△ទុកជាដូចម្ដេចក៏ដោយ どうであろうと。 いずれにせよ。

△ទុកជាយ៉ាងណាក៏ដោយ いずれにせよ。 たとえどうであろうと。

△ទោះ~ក៏ដោយ たとえ~にせよ/~であっても/~しようと。

△ទោះជា~ក៏ដោយ = ទោះជា~ក៏= ទោះណាជា~ក៏ដោយ = ទោះបីជា~ក៏ដោយ。 たとえ~であろうと。 ~にもかかわらず。 ទោះជាមានភ្លៀងក៏ដោយ

雨にもかかわらず。 ក្រៅពីប្រាក់ទោះជារបស់អ្វីក៏ដោយខ្ញុំយក 金以外は何であろうと受け取る。

△ទោះជាយ៉ាងណាក៏ដោយ ① いずれにしても。 どうであろうと。 ② → ទោះជា~យ៉ាងណាក៏ដោយ = ទោះបី~យ៉ាងណាក៏ដោយ。 どんなに~しても。 たとえどんなに~であろうと。

△ទោះណាជា~ក៏ដោយ = ទោះជា~ក៏ដោយ。

△ទោះបី~ក៏ដោយ たとえ~であっても/~であろうと/~しようと。

△ទោះបីជា~ក៏ដោយ = ទោះជា~ក៏ដោយ。

△ទោះបីយ៉ាងណាក៏ដោយ = ទោះជា~យ៉ាងណាក៏ដោយ。

△មួយណាក៏ដោយ どのひとつも。 どれも。

△ម្ដេចក៏ដោយ = ម្ដេចក៏。 いずれにせよ。

△យ៉ាងណាក៏ដោយ = យ៉ាងណាក៏。 ① とうであろうと。 いずれにせよ。 ② → ~យ៉ាងណាក៏ដោយ どんなに~しても/~であっても。

△យ៉ាងណាមិញក៏ដោយ いずれにしても。

△យ៉ាងម្ដេចក៏ដោយ どうであれ。 いずれにせよ。(→見出し語(見出し)の中)。

△អង្គាល់ក៏ដោយ 今にも。

△អញ្ចឹងក៏ដោយ たとえそうであっても。

△អ្វីក៏ដោយ 何であれ/あろうと。

※Aក៏ដោយ・Bក៏ដោយ AであろうとBであろうと。 AしようとBしようと。 ទៅក៏ដោយមិនទៅក៏ដោយ 行くにせよ行か

※လှက်·ကဏ္ဍ (ポケットを) さぐる。
※ကြိယာ·ကဏ္ဍ·(ငိုက်) = ကြိယာ·ကိရိယာ。
平泳ぎで泳ぐ。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'keɪ kə'koɪ] (cf. ကိရိယာ, ကြိယာ, -) (形) = ကိရိယာ·ကိရိယာ, (なんだから) だかんだと言って命令や言いつけなどに) 従おうとしない, 弁舌を弄して人を欺く。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'keɪ kə'ko:ɪ] = ကိရိယာ·ကိရိယာ, ကိရိယာ [kə'kaɪ] (<ကိရိယာ) (動) 軽くさわる/触れる/こする/こすれる/接触する。

ကိရိယာ [kə'kaɪ] (<ကိရိယာ) (動) いざる, 尻をずらす (←席をつめる時のように), (尻で) にじる, ကိရိယာ·ဗဟု·သိက္ခာ にじり寄る。

ကိရိယာ [kə'koɪ] (エ) → ကိရိယာ·ကိရိယာ。

ကိရိယာ [kə'ko'sant'əɪ] (p. kakusandha) (名) 拘留孫仏 (→ ကိရိယာ·ကိရိယာ 「賢劫」, ကိရိယာ 「仏陀」)。

ကိရိယာ [kə'ko:ɪ] (エ) → ကိရိယာ·ကိရိယာ = ကိရိယာ·ကိရိယာ。

ကိရိယာ [kə'ko:] (<ကိရိယာ) (動) (茶/コーヒー/スープを) 何回も丸く掻きまぜる。

※လှော်·ကိရိယာ (食べ物) (လှော်)。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'ke:ɪ kə'ka:ɪ] (<ကိရိယာ·ကိရိယာ) (形) ①邪魔な, ②ぶざまな, ぎこちない。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'ke:p kə'ka:p] (副) 力をふりしぼって, えっちらおっちら。

ကိရိယာ [kə'ke:] (動) 前歯でかじる, 前歯を使って食べる (←トウモロコシを食べる時のような食べ方), (爪を) 噛む。

※လှော်·ကိရိယာ (動物学) 齧齒類。

ကိရိယာ [kə'keɪ] (<ကိရိယာ) = ကိရိယာ, (動) 何回も引っ掻く (←指の爪などで, たとえば注意を引くために, 痒い時に掻くのはကိရိယာ)。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ·ကိရိယာ 引っ掻き回して探す。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'kae kə'ko:] (形) あーあー/ばぶばぶと言う (←赤ん坊の片言), (音) あーあー, ばぶばぶ。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ·ကိရိယာ 片言を言う (←赤ん坊が)。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ·ကိရိယာ 片言 (←赤ん坊の)。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ·ကိရိယာ 片言を言う (←赤ん坊が)。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'kae kə'kae] (-, <ကိရိယာ) (音) (大声でしゃべっているさかい声), がやがや, わいわい。

ကိရိယာ·ကိရိယာ [kə'kaeɪ kə'kaeɪ] (<ကိရိယာ·ကိရိယာ) (形) 乱暴/失礼/無礼/生意気な (態度, 行儀)。

ကိရိယာ [kə'kaeɪ] (名) (牛や水牛や馬などの足の踵の地面につかない部分)。

ကိရိယာ [kə'keɪ] = ကိရိယာ。

ကိရိယာ [kə'kae] (<ကိရိယာ) (副) 傍若無人に大声でわあわあと (←周囲や相手の人の迷惑/気持ちを考えずにしゃべる), (音) (傍若無人に大声でしゃべる声)。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ → ကိရိယာ·ကိရိယာ·ကိရိယာ (酔っぱらいのように相手の人の迷惑も考えずに) ぐだぐだしゃべる/言う。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ (大声でしゃべっているさかい声), がやがや, わいわい。

※ကိရိယာ·ကိရိယာ 大声でしゃべる。

ကိရိယာ [kə'kaeɪ] (エ) → ကိရိယာ·ကိရိယာ。

ករកាស [kə'kaoh] (<ករកាស) (動) 不注意
で物をこすって(だめにする) / 物に引っ掛けて
て(服を破る)。
ករកា៖ [kə'kəh] (ok. krakuḥ?) (名) (木)
マメ科, *Sindora cochinchinensis* (S). アカ
ネ科タニワタリノキ属タニワタリノキ,
Nauclea orientalis. マメ科, *Sindora*
sumatrana (H). (←とても硬いので柱, 床
板, 家具などに使用)。

※ករកា៖វ្រៃកាស マメ科, *Sindora maritima*
(S).
※ករកា៖វ្រៃស្រូវកាស マメ科アフゼリア属マライシ
口ヨナ, *Azelia retusa?* (S).

កក្កដ [kakkə'da] (s. karkaṭa と p.
karkaṭaka の混合) (名) = កក្កដ. ①カニ。
②陽暦7月。③= កក្កដាសិរី。
កក្កដានិវត្តន៍ [kakkə'da'ni'vət] (កក្កដ + p.
nivattana) (名) 北回帰線。

កក្កដាសិរី [kakkə'da'ri'əsəi] (កក្កដ + p. rāsi,
s. rāsi) (名) = កក្កដ. かに座。巨蟹宮。

កក្កដា [kakkə'da:] (<កក្កដ) (名) = វិទ្ធ.
កក្កដា. 陽暦7月。

កក្កដាភាព [kakkə'da'p'i'əp] = កក្កដាភាព.
កក្កដាភាព [kakkə'da'p'i'əp] (p. kakkhaḥa +
bhāva) = កក្កដាភាព. (名) ①硬さ。硬度。
②耐久性。

កក្កដាសិលា [kakkə'da'se'la:] (p. kakkhaḥa +
silā) (名) 粗面岩。

កក្កត [kə'krət] (エ) → កក្កត. កក្កត.

កក្កត [kə'krət] (エ) ① → កក្កត៖. កក្កត៖.
② → កក្កត៖. កក្កត៖.

កក្កត [kə'kraək] (cf. កក្កត) (動) ①
(音がする程大きく地面や家動く). がたが
た揺れる。(全体が) 振動する。②(地面を)
揺るがせる。

※កក្កត. ញាប់ញ័រ がたがた揺れる。
※កក្កត. ដី ① = ដី. កក្កត = កក្កត. ព្រះ.
ធនណី. 地震。② → កក្កត. ទឹក. កក្កត. ដី.
※កក្កត. ទឹក. កក្កត. ដី 天地を揺るがす
(轟音)。

※កក្កត. ព្រះ. ធនណី = កក្កត. ដី.
※កក្កត. វិជ្ជុល 大きく揺れる(←地割れがで
きるくらい)。
※កក្កត. វិញ្ញាណ ぐらぐら揺れる。(聴衆が)
とよめく。

※ដី. កក្កត = កក្កត. ដី.
※រោទ៍. កក្កត (本体も震えるほどにぶるぶ
るという音を出す). ぶるぶる激しく轟く/う
なる。

កក្កត៖. កក្កត៖ [kə'krəh kə'krəh] (形) か
たくな/頑固な。

កក្កត៖ [kə'krəh] (<កក្កត៖) (形) ①味の
ない(味, 文体)。固くて味のない。まずい
(料理)。②愛想のない。ぶっきらぼうな
(顔)。面白くなさそうな(笑)。③乾ききつ
た。不毛の(土地)。 មុខ. កក្កត៖ 愛想の
ない/ぶっきらぼうな顔。

※សាប. កក្កត៖ ①味がなくなった。②興ざめ
の。

※សាប៖. កក្កត៖ ①愛想のない。ぶっきらぼ
うな。味もそっけもない(返事)。何の面白
もない(景色, 人柄)。面白くもなさそう

(笑い). 退屈な(パーティー). 平凡な(人生). 冷やかな(微笑). 冷淡な. ②不作法な. 礼儀知らずの(言葉). ③乾ききってます. ④乾ききった(土地). 荒涼たる(平原. 景色).

※*ស្រគ់·ក្រែក* [kə:k'ək] からからに乾き切った.

※*វិហារ៍·ក្រែក* [kə:k'i'ək] 荒れ果てた. 不毛の.

ក្រ្តាក [kə:k'la'] (副) だらだら(汗を流す. よだれを垂らす).

※*រត់·ក្រ្តាក* (犬が) よだれを垂らしながら/(人が) 慌てふためいて走り回っている.

※*ហូរ·ក្រ្តាក* だらだら流れる.

※*ហៀរ·ក្រ្តាក* (よだれを) だらだら垂らす.

ក្រាក [kə:k'a:] (<*កាក*) (副) 何回も大声を出して(笑う. 騒ぐ. 話す. 遊ぶ).

※*ក្រាក·ក្រាយ* 何回も大きい声を出して(笑う. 騒ぐ. 話す. 遊ぶ).

ក្រាយ [kə:k'ai] (エ) (<*កាយ*). → *ក្រាក·ក្រាយ*.

ក្រឹច [kə:k'i'ək] (形) (魚が水面に口を出して) ぱくぱくしている. (音) くっくっ(←笑い声).

※*មាត់·ក្រឹច* (魚が) 口をぱくぱくする.

※*សើច·ក្រឹច* くっくっと笑う.

ក្រឹល [kə:k'i'əl] (<*ក្រឹល*) (形) = *ក្រឹល*. 止めどない. とぎれることのない. (←話す. 笑う). 飽きることなくいつまでもべちゃべちゃ(しゃべる). *និយាយ·ក្រឹល* べちゃべちゃ話す. べらべらと止めどなく/とぎれることなくしゃべる. *សើច·ក្រឹល* いつまでもげらげら笑う.

ក្រឹក [kə:k'i'ək] (<*ក្រឹក*) (音) 何回も/いつまでもくすくす(←独りで笑う声).

ក្រឹក្រឹក [kə:k'i'ək] (<*ក្រឹក្រឹក*) (音) 何度も/いつまでもげらげら(←笑う声).

※*ស្រួល·ក្រឹក្រឹក* 楽しげに笑う.

ក្រឹក្រឹច [kə:k'i'ək] (副) (ウジが) うようよ.(汗が) だらだら.

※*ច្រើន·ក្រឹក្រឹច* (ウジが) うようよとたかっている.

កខ័ក [kə:k'ək] (エ) → *កខ័ក·កខ័ក*.

ក. ខ. ក. [kə:k'ək p'ək] (កង្វះទ្រព្យ. *ខ្មែរក្រហម*「カンボジア王国軍」の略).

កខ័ក [kə:k'ək] (動) 挫く. 脱臼する. (エ) → *កខ័ក·កខ័ក*.

កខ័ក·កខ័ក [kə:k'ək kə:k'ək] (<*កខ័ក*. ㄉ < *ខ័ក*. cf. *រខ័ក·រខ័ក*) (動) ①むせる(←液体に). むせてだらだら垂らす. ②(痰が喉に引っ掛かって) 何回もかーっと喉を鳴らす. ③(穴が大きすぎて) がたがたと音がする. (音)

①(飲み物などにむせる音). ②がたがた.

កខ័ប [kə:k'ək] (動) 曲がる. (エ) → *កខ័ប·កខ័ប*.

កខ័ប·កខ័ប [kə:k'ək kə:k'ək] (<*កខ័ប*. *ខ័ប*) (副) いつまでも小踊りして/飛び回って(喜ぶ).

កខ័ក [kə:k'ək] (<*កខ័ក*) (音) 何回も/いつまでもくすくす(←独りで笑っている声).

កខ័ប [kə:k'ək] (名) ①(虫) (←ゴキブリに似ている). ②(木) クワ科イチジク属,

Ficus politoria (H). (エ) → *កខ័ប·កខ័ប*.

កខ័ស [kə:k'o:h] (<*ខ័ស*) (音) = *ខ័ស*.

(何回もひきずる音。カメが這う音)。

កវៃក៏កវៃខាត [kə'k'aek kə'k'aok] (cf.

វៃខែក៏វៃខាត) (音) = កវៃខែក៏កវៃខាត.

(古い家やエンジンががたしびする音)。

កវៃខាត [kə'k'aok] (エ) → កវៃខែក៏កវៃខាត.

កវៃខាត [kə'k'la'] (កវៃខាតが正しい)。

កវៃខ្លះ [kə'k'leh] (エ) ① → កវៃខ្លះកវៃខ្លាញ់.

② → កវៃខ្លះកវៃខ្លះ = កវៃខ្លះកវៃខ្លាញ់.

កវៃខ្លះកវៃខ្លាញ់ [kə'k'leh kə'k'laon] (副) =

កវៃខ្លះកវៃខ្លះ. いい加減に. 怠けて. ぐずぐずと. (←普通の2倍も3倍も時間をかけて行う/働く).

កវៃខ្លះកវៃខ្លះ [kə'k'leh kə'k'loh] = កវៃខ្លះ

កវៃខ្លាញ់.

កវៃខ្លាញ់ [kə'k'laon] (エ) → កវៃខ្លះកវៃខ្លាញ់.

កវៃខ្លះ [kə'k'loh] (エ) → កវៃខ្លះកវៃខ្លះ =

កវៃខ្លះកវៃខ្លាញ់.

កវៃខ្លឹក [kə'k'va'] = កវៃខ្លឹក (俗). (形) 汚れた.

汚い. (社会の) 暗黒(面). (cf. 話し言葉では កវៃខ្លឹក を多用).

※ កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក (俗) = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក (俗). (裏通りなど, どぶにごみが一杯つまったりして) とても

汚い. (話し言葉では កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក を多用).

※ កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក.

※ កវៃខ្លឹក 汚水.

※ កវៃខ្លឹក 汚れた空気.

※ កវៃខ្លឹក だらしのない女.

កវៃខ្លាស់ [kə'k'va:h] (エ) → កវៃខ្លាស់កវៃខ្លាស់.

កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក [kə'k'vak kə'k'va'] = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក

= កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក (俗) = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក (俗).

(形) (裏通りなど, どぶにごみが一杯つまったりして) とても汚い. (話し言葉では

កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក を多用).

កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក [kə'k'vak kə'k'va'] = កវៃខ្លឹកកវៃខ្លឹក.

កវៃខ្លាស់កវៃខ្លាស់ [kə'k've:h kə'k'va:h] (<

វៃខ្លាស់) (形) あっちをつかもうとしたり, こっちをつかもうとしたりしている. (溺れる人が) 何かにつかまろうともがいている. (這い上ろうとして) 手足を何回も動かしている.

កវៃខ្លាស់ [kə'k'ul] (កវៃខ្លាស់が正しい).

កវៃខ្លាស់ [kə'k'ul] (កវៃខ្លាស់が正しい).

កវៃខ្លាស់ [kə'k'ul] (cf. t. កវៃខ្លាស់ : kə'k'ul) (名) ① 軍

隊. 軍. ② (官庁の) 局. ③ (名) ① (ok.

kañ<s. kañkaṇa, kañkana?). (装身具としての輪). ② (1抱えできる量). (薪など) ~

抱え. ③ (植) (S). (動) ① 抱える (←抱くように). ② 輪にする. (形) (cf. ok.

koñ「鐘」) (cf. t. កវៃខ្លាស់ : kə'k'ul). 大きい

(音. 声). 大きく響く (音. 声). (エ) ①

→ កវៃខ្លាស់. ② → កវៃខ្លាស់. ③ →

កវៃខ្លាស់. ④ → កវៃខ្លាស់. កវៃខ្លាស់ 1抱えの薪.

កវៃខ្លាស់ 1抱えの薪.

កវៃខ្លាស់ 1抱えの薪.

※ កវៃខ្លាស់ (ទ័ព) = កវៃខ្លាស់. 軍. 軍隊.

※ កវៃខ្លាស់. អាជ្ញា. សាធារណៈ 検察局.

※ កវៃខ្លាស់. ក៏ = កវៃខ្លាស់. (植) アオギリ科サキシ

マスオウノキ属サキシマスオウノキ, Heritiera littoralis (S).

※កងកណ្ត កណ្តの群 (←火葬の火の中に現れる)。

※កងកម្មវិធី្ត ｺﾏﾝﾄﾞ. 特別攻撃隊。

※កងកាំភ្លើងធំ 砲兵隊。

※កងក្រវិល 耳輪 (←輪だけの耳飾り)。

※កងក្រវិល 見張り隊 (←軍). 斥候. ﾊﾞﾄ
ｰｰｰ隊 (←制服でも私服でも可)。

Δក្រុមកងក្រវិល ﾊﾞﾄｰｰｰ隊。

※កងក្រោយ 後方の部隊. 後衛隊。

※កងខេត្ត = កងរក្សាខេត្ត. 州守備軍。

※កងខេមរភូមិន្ទ = កងទ័ពខេមរភូមិន្ទ =
កងយោធពលខេមរភូមិន្ទ. カンボジア王
国軍。

※កងឃុំ 自警団。

※កងចល័ត = កងទ័ពចល័ត. ①機甲部隊。
②機動隊. ③遊撃隊。

※កងចៅ (昔の宮中の下女) (←ចៅពល
の娘から選ばれた)。

※កងច្រវាក់ 鎖の輪。

※កងជំរំពល 民兵。

※កងជើង 足輪 (←飾り)。

※កងឈ្មួញ ①民兵. ②ゲリラ。

※កងដៃ 腕輪 (←飾り)。

※កងដំរុត = កងពលតូច。

※កងដៃណាវ (腕輪) (←飾り)。

※កងទ័ព (cf. t. កងទ័ព : ko:ŋ t'áp). ①
軍. ②師団。

※កងទ័ពខេមរភូមិន្ទ = កងខេមរភូមិន្ទ。

※កងទ័ពចល័ត = កងចល័ត。

※កងទ័ពជើងគោក = ទ័ពជើងគោក。
陸軍。

※កងទ័ពជើងទឹក = ទ័ពជើងទឹក. 海軍。

※កងទ័ពជើងអាកាស = កងទ័ព

អាកាស = ទ័ព (ជើង) អាកាស. 空軍。

※កងទ័ពដំរី ゾウ兵軍 (→ចតុរង្គ「四軍. 四
兵」)。

※កងទ័ពថ្មើរជើង = ទ័ពថ្មើរជើង. 歩
兵隊. 歩兵軍 (→ចតុរង្គ「四軍. 四兵」)。

※កងទ័ពរថ = កងទ័ពរថ. 戦車兵軍
(→ចតុរង្គ「四軍. 四兵」)。

※កងទ័ពរទេះ = កងទ័ពរថ。

※កងទ័ពសកម្ម = ទ័ពសកម្ម. 現役軍。
(留守部隊に対する) 現在作戦中の軍。

※កងទ័ពសម្ព័ន្ធ 連合軍。

※កងទ័ពសេរីការ 解放軍。

※កងទ័ពសេះ = ទ័ពសេះ. 騎兵隊. 騎兵
軍 (→ចតុរង្គ「四軍. 四兵」)。

※កងទ័ពអចិន្ត្រៃយ៍ 常備軍. 正規軍。

※កងទ័ពអាកាស = កងទ័ពជើង
អាកាស。

※កងទាហានជើង = កងទាហានវិស្វករ
(書). 工兵隊. 施設部隊。

※កងទាហានវិស្វករ (書) = កង
ទាហានជើង。

※កងទីប្រាំ 第5列 (= スパイ, 内通者)。

※កងទុក្ខ 苦しみの束. 種々の苦しみ (に取り
囲まれている)。

※កងធម៌ (アンコール時代に仏教徒で組織さ
れた軍隊)。

※កងនាវា ①海軍. ②艦隊。

※កងនាវាចម្បាំង 艦隊。

※កងនាវាជាតិ ~ ~ 国海軍。

*កងនាវាជំនួញ 商船隊。
 *កងនាវាតូច 戰隊 (← 艦隊の下)。
 *កងនាវាសមុទ្រ 艦隊。
 *កងនាវាយោធា 海軍。
 *កងនាវិក ① 海軍。② 艦隊。
 *កងបន្ថែម 増援部隊。
 *កងបូរណ 予備軍。補充軍。
 *កងប៉ូលីសពិសេស 特別警察隊。
 *កងពន្ធ ① → មេកងពន្ធនាស = អាជ្ញាហ្នឹងពន្ធនាស。ពន្ធនាស 徵稅吏。② → មេកងពន្ធស្រូវ = អាជ្ញាហ្នឹងពន្ធស្រូវ。稲税徵稅吏。
 *កងពល (cf. t. កងពល : ko:ŋ p'on)。
 ① 軍。② = កងពលធំ。
 Δកំណែនកងពល 兵の動員。បញ្ចេញពីកំណែនកងពល 兵の動員解除を行。

*កងពលក្រោះ = កងពលរថក្រោះ。
 *កងពលតូច = កងដំរុក。旅団。
 *កងពលធំ = កងពល。師団。
 *កងពលរថក្រោះ = កងពលក្រោះ。機甲師団。
 *កងពិសេស 特別任務部隊。
 *កងព្រះរាជដំរុក 近衛兵。
 *កងម៉ារីន 海兵隊。
 *កងមាស (コンボンチャム州の郡名)。
 *កងមុខ ① 前線部隊。② 前衛部隊。
 *កងយក 翡翠の腕輪。
 *កងយាមល្បាត パトロール隊。警備隊。
 *កងយោធពល 軍隊。武装軍。
 *កងយោធពលខេមរភូមិន្ទ = កងខេមរភូមិន្ទ。

*កងយោធា 軍。軍隊。
 *កងរក្សាខេត្ត = កងខេត្ត。
 *កងរក្សាព្រះអង្គ 王宮守備兵。近衛兵。
 *កងរណសិរ្ស (解放) 戦線軍。
 *កងរណសិរ្សសេរីការជាតិ 国民解放戦線軍。
 *កងរថក្រោះ 戦車隊。
 *កងរំពង がかがや/わあわあ騒ぐ。大きく響く (← 音。声)。យកងរំពង 大声で泣く。(カエルやトリなどが) にぎやかに/うるさく鳴く。សត្វយកងរំពង 鳥たちがびーちくばーちくとにぎやかにさえずる。
 Δសរកងរំពង がかがや/ざわざわとうるさく聞える音/声。
 Δហ៊ឹកងរំពង 歓声をあげる。
 *កងល្បាត (国境) 警備隊。パトロール隊。
 *កងវរសេនាតូច 大隊。
 *កងវរសេនាធំ 連隊。
 *កងសោយ (曲)。
 *កងស្វយ័តដំបូង 日本の自衛隊。
 *កងអង្គទ័ព = អង្គទ័ព。軍団。
 *កងអនុសេនាតូច 小隊 (← 中隊の下)。
 *កងអនុសេនាធំ 中隊。
 *កងអាកាសចរណ៍ខេមរភូមិន្ទ カンボジア王国空軍。
 *កងអាកាសយាន 飛行大隊。
 *កងអាសា = កងអាសាស្ត្រ。
 *កងអាសាបរទេស 外人部隊。
 *កងអាសាស្ត្រ = កងអាសា。志願兵部隊/軍。
 *កងឯកទេស ① 国難を救うための決起軍。

② 専門家部隊。

※ကံ့ခဲကနာတ 特殊部隊。

※ကြံ့ကံ့ (輪の形の装飾品)。金の腕輪/
足輪。

※ခီကံ့ (祭りの時のように大勢の人出で、
人が歩いたり、話したり、売り子の呼び声があっ
たりして) にぎやかな。わあわあ騒ぐ/声を出
す。うるさい。騒々しい(喧嘩)。

※ခီခီကံ့ 椎骨?。

※ဒာယကံ့ 隊長。

※ဒံ့ကံ့ = ဒံ့ကံ့。(菓子)(←豆粉を油で揚
げたばりばりしたドーナツ状の揚げ菓子。結
婚式など慶事に作る)。

※ဏာကံ့ (親指の股と肘とにかけてロープ
を巻くその時の長さ)。

※တဲကံ့ ①隊長。司令官。②(植)アカネ科、
Canthium didymum (S)。③[η]で終る音
節/語。

※တဲကံ့ဒံ့ 副官。

※ခီခီကံ့ = ခီခီကံ့。

※ခီခီကံ့ = ခီခီကံ့。①やかましい(←鳥/
子供の遊んでいる声などが)。騒ぎ立てる声が
がやがやとやかましい。うるさい。②響き渡る。
轟く。大きい声/音が鳴り響く。

ကံ့ဝ [ko:ŋ ko:ŋ] (間) = ချိကံ့ဝ。(牛
や水牛に尾を上げさせるための掛け声)。

ကံ့တဲကံ့ [ko:ŋ ke:ŋ] = တဲကံ့ကံ့。

ကံ့တဲခီ [ko:ŋ poan] (名)(ボートレースの
レーンを示すための旗を立ててある舟)。

ကံ့ [kaŋ] (cf. t. ဂဒံ့: koŋ) (名) ①(俗)
自転車 (cf. 正式はတဲခီကံ့ကံ့)。

キャスト。③輪切りにしたもの(←魚やサト
ウキビ等)。④体節(←節足動物の)。ခီ:
ကံ့ 自転車に乗る。ကြံ့မူယကံ့ 輪切り
の魚1切れ。

※ကံ့တဲကံ့ တဲကံ့ တဲကံ့ (=タイヤ+ホイ
ール)。

△တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ တဲကံ့ တဲကံ့。

※ကံ့တဲကံ့ → ဒံ့ကံ့တဲကံ့ (菓子)。

※ကံ့တဲကံ့ ကံ့တဲကံ့ キヤタピラー。

※ကံ့တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ဒံ့ဒံ့ဒံ့ဒံ့ 罪
業は罪業でむくわれる。

※ကံ့ကြံ့ 魚の切り身(←輪切りにしたもの)。

※ကံ့တဲကံ့ → ကံ့တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ဒံ့ဒံ့
မူယကံ့。

※ကံ့မူယ = ကံ့တဲကံ့မူယ。

※ကံ့တဲကံ့တဲကံ့တဲကံ့ (福引きの抽選の
玉が出る回転箱)。

※ကံ့တဲကံ့ → တဲကံ့: ကံ့တဲကံ့ 三輪車。

※ကံ့တဲကံ့ ①タイヤがパンクする(←破裂す
る感じ)。②パンクしたタイヤ。

※ကံ့တဲကံ့မူယ = ကံ့တဲကံ့မူယ。

△တဲကံ့ကံ့တဲကံ့မူယ ①(車輪にかかる重量を
等しくさせる)。②タイヤ圧を調整する。

※ကံ့တဲကံ့ 車の車輪。

△တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ 車輪に巻く輪。輪革。わが
ね(輪鉄)。

△တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ 車軸。

※ကံ့တဲကံ့တဲကံ့ 糸車。

※ကံ့တဲကံ့မူယ = ကံ့တဲကံ့မူယ。①自動車の車輪。

②タイヤの車輪。

△တဲကံ့ကံ့တဲကံ့ တဲကံ့ 空気を入れる。

Δប៉ះកង់ឡាន パンクを修理する。
 Δពេទ្រចក់កង់ឡាន = ពេទ្រចក់ស្បែក
 ជើង. 遊び回ってばかりいる。
 ※កង់ឡានឆ្មាយ = កង់ឆ្មាយ. 車のタイヤ
 がパンクする/パンクして空気もれる。
 ※កូនកង់ ①ローラー. キャスター. ②子供用
 自転車。
 ※កាំកង់ 車輪のスポーク。
 ※ខ្នងកង់ リム(←車輪の). ホイール。
 ※គម្របកង់ = ពុំនឹក = ពុំនឹក. 泥除
 け(←自動車の車輪の後のゴム片)。
 ※វ៉ែនកង់ フレンジ(←車輪の)。
 ※រលឹកង់ 丸太。
 ※ជែកង់ 自転車のハンドル。
 ※ខ្នងកង់ 自転車に2人乗りする。
 ※ត្រាំកង់ (植) = ត្រីសក「(植) マメ科,
 Peltophorum dasyrachis (S)」または
 ទ្រាស (S) 「(木) マメ科ネムノキ属タイワ
 ンネム, Albizzia procera (S)」。
 ※នំកង់ = នំកង់. (菓子) (←豆粉を油で揚
 げたばりばりしたドーナツ状の揚げ菓子。結
 婚式など慶事に作る)。
 ※បក់កង់ 輪回し(←遊び)。
 ※វែកកង់ タイヤがパンクする。
 ※ប្រណាំងកង់ 自転車レース。
 ※ពោះរៀនកង់ = កៅស៊ូពោះរៀន
 កង់. タイヤのチューブ。
 ※មានកង់ → ស្បែកជើងរំអិលមានកង់
 ローラースケート靴。
 ※រទេះកង់ 自転車。
 ※ស្រណុកកង់ (マメ)。

※សំបកកង់ タイヤ。
 កង់ភាក់ [kəŋtaʔ] = កង់ភាក់。
 កង់ញ៉ា [kəŋkaŋ] (cf. អង់ញ៉ា) (形) 縮れ
 た. 波打った. 波形の. ウェーブした(髪)。
 ※កង់ញ៉ា. រលក 波のうねり. 波動。
 ※ក្រឡា. កង់ញ៉ា 不整な木目。
 ※ជែក. បន្ទះ. កង់ញ៉ា 波形板. なまこ板。
 ※បក់. កង់ញ៉ា 波打つ。
 ※ជួត. កង់ញ៉ា (髪の) ウェーブ。
 កង់ញ៉ា [kəŋkoŋ] = អង់ញ៉ា。
 កង់ថ [kəŋku'oc] (動) (<កថ?)。鳴く。
 鳴いて呼び合う。(←ゾウが仲間を集めるため
 に)。(名) = អង់ថ。
 កង់ញ៉ា [kəŋku'or] (cf. ត្រីកញ៉ា, អង់ញ៉ា)。
 = អង់ញ៉ា。
 កង់ប [kəŋkaep] (ok. kaŋkep : 人名) =
 អង់ប (俗)。(名) カエル. កង់ប. យ
 カエルが鳴く。
 ※កង់ប. កូប (カエル) (←大型. កូប. ១と
 鳴く)。
 ※កង់ប. ពុប (カエルの内臓を取り除き,
 腹中にコショウやトウガラシを詰めて焼いたも
 の)。
 ※កង់ប. ប្រយ = កូន. រស្មីន. (カエル)
 (←小型. 胴と足が長い)。
 ※កង់ប. អាចម៍. គោ (カエル) (←小型. 胴
 と足が短い. 牛糞にたかるのでこの名がある)。
 ※កង់ប. អាចម៍. គោ. ហ៊ាន. លោត. ទាំ. ពស់.
 វៃក 螻蛄の斧。
 ※កង់រ. កង់ប (カエルを穴から引き出した
 めの鉤)。

※*ជើងកង្កែប* → *អង្គុយបត់ជើងកង្កែប*
= *អង្គុយបត់ភ្នែកកង្កែប*. (両足の間に尻
を落として座る) (←カンボジアでは正式な座
り方).

※*ប្រមាត់កង្កែប* (草).

※*ពស់វែកកង្កែប* (コブラ) *Boiga*
multimaculata (H).

※*ភ្នែកកង្កែប* ①カエルの腿. ②=*គង្កា*=
អំបិះ=*អំបិះ*. (植) オクナ科オクナ属,
Ochna harmandii (S).

※*ម្រាមកង្កែប* (草).

※*សម្លាប់កង្កែប* → *ពស់សម្លាប់កង្កែប*
(ヘビ) *Cerberus rhynchops* (H).

※*ស្រែងកង្កែប* (皮膚病) いんきん(?).

※*ហែលកង្កែប* = *ហែលកាយ* (ទឹក).
平泳ぎで泳ぐ.

កង្កែម [kəŋkrə:m] (名) (ツタ).

កង្កា [kaŋk'a:] (p. kañkhā) (名) 疑い. 懷疑.
猜疑.

កង្កើញ [kəŋk'æŋ] (動) ①ちょっと持ち上げ
る (←座る前の時などのように, スポンヤスカ
ートを). ②(殴るために腕を) 引く. ③攻め寄
せる.

※*កង្កើញចូល* にじり寄る. *ទ័ពសត្រូវ*
កង្កើញចូលជិត 敵軍が攻め寄せて来る.

Δលាត់កង្កើញចូល (喧嘩をするときに)
裾を捲り上げてにじり寄る.

※*កង្កើញវែងដាល* 殴るために腕を引く.

កង្កិតាលកូល [kaŋku'ta'la'ko:l] (ps. kaŋgu +
tāla + kula) (名) (植物学) ソテツ科(?).

កង្កង់ [kəŋvəŋ] (<ខ្នង) (名) (螺旋状の

物). 螺旋状ばね.

កង្កល់ [kəŋvəl] (<ខ្នល់) (名) ①悩み. 心配.
不安. 厄介事. 面倒. ②政情不安. 治安が悪い
こと. 内乱.

※*កង្កល់ចិត្ត* 気にする. 心配/懸念する.

※*កង្កល់មុខក្រោយ* あっちも気になるし, こっ
ちも心配だ.

※*កើតកង្កល់* 気にかかる. 心配だ.

※*កើកង្កល់* 心配.

※*មានកង្កល់* 悩み事/心配がある.

※*គតកង្កល់* 気にかけない. 苦勞の無い. 気ま
ぐれな.

កង្កាក់ [kəŋva'] (<ខ្នាក់) (蔑) (名) 盲目の
人. (形) 盲目の.

កង្ការ [kəŋva:] (<ខ្នារ) (名) (引き出すた
めの鉤). 揺爬器.

※*កង្ការកង្កែប* (カエルを穴から引き出すた
めの鉤).

※*កង្ការកាម* (カニを穴から引っ掻き出すた
めの鉤).

※*កង្ការដួង* (ココヤシの実を引っ掛けて落と
すための道具).

※*កង្ការត្រចៀក* 耳掻き (←道具).

កង្កិន [kəŋvən] (<ខ្និន) (蔑) (名) いざり
の人. (形) いざりの.

កង្កើន [kəŋvi'ən] (<ខ្នើន) (ok. kañvyān :
人名) (副) (隅っこ/狭い所に) 丸まって.
小さくなって (座って/隠れて/寝ている).

កង្កើរ [kəŋve:] (<ខ្នើរ) (名) (先端に鉤が
ついていて, ゾウの耳などに引っ掛けてゾウを
御するための道具).

កង្វះ [kəŋvəh] (<ខ្លះ) (名) 不足。欠乏。
 ※កង្វះសារធាតុ 栄養不良。
 កង្វរ [kəŋhə:] (名) ばちんこ (←粘土の塊を
 とばす)。
 កង្វារ [kəŋhal, kəŋha:] (<ខ្វារ?) = កង្វាល់
 (俗) = ដង្វាល់ (俗)。 (名) 風車。プロベ
 ラ。スクリュウ。扇風機。ファン。ウインチ。
 លំហើយខ្លះនឹងកង្វារ 扇風機で涼む。
 ※កង្វារវិល (鳥を追うために田畑の中に立て
 た風車)。
 ※ទ្វារកង្វារ 回転ドア/木戸。
 ※យន្តហោះកង្វារ プロベラ機。
 ※ស្នាមកង្វារ 水車/風車の羽根。
 កង្វាល់ [kəŋhal] (កង្វារの俗)。
 កង្វីច [kəŋhəc] (名) (リス) (←កង្វីនន្ទ
 小かくកង្វីកより少し大きい)。
 កង្វីត [kəŋhət] (名) (植) マメ科カワラケツ
 メイ属ハネセンナ, *Cassia alata* (H) (←黄
 色い花が咲く。薬用)。
 ※កង្វីតខ្លាច (កង្វីត)。
 ※កង្វីតលាបស្រែង (កង្វីត)。
 កង្វីយ [kəŋhoi] (間) (→ចាកទឹកដុះ)。
 កង្វីង [kəŋhəe] (<ខ្វីង) (名) (古) 季節。
 កង្វីន [kəŋhaen] (名) (リス) *Sciuridae*,
 ក្រះខ្លឹម (←កង្វីចより大きい)。
 កថ [kə:c] (エ) → រមកថ。
 កថាយន្ត [kaccə'ya'naʔ] (p. *kaccāyana*)
 (名) ① (僧の名) (←パーリ語文法書を著わ
 した)。② = មលកថាយន្ត (書名) (←
 កថាយន្តの著わしたパーリ語文典)。③ かせ
 ណេណ (迦旃延) (= 釈迦 10 大弟子のひと

り)。
 កថាយន្តបតិមកៈ [kaccə'ya'nu'patt'amp'əə'kaʔ]
 (p. *kaccāyana + upatthambhaka*) (名) (書
 名) (←កថាយន្ត: 著わしたパーリ語文法書
 であるមលកថាយន្ត: 解説書。モハニカイ
 派の僧王ជនណតិជោតញ្ញណោ 著)。
 កថជាតិ [kacc'a'ci'ət] (ps. *kaccha + jāti*)
 (名) 有毒植物。毒草。
 កថបសត្តិ [kacc'a'pa'sat] (s. *kacchapa +
 sattva*) (名) (動物学) カメ類の動物。
 កថជាតិ [kacc'o'ci'ət] (ps. *kacchu + jāti*)
 (名) (植物学) イラクサ科。
 កញ្ចក់ [kəŋcəkʔ] (<ខ្លក់) (蔑) (名) びっこ
 の人/動物。(形) びっこの。
 កញ្ចក់ [kəŋcəkʔ] (cf. t. ក្រះខ្លឹម : *kracòk*)
 (名) ① 鏡。② (材料でなく物の構成部分になっ
 ているガラス)。窓ガラス。(自動車や汽車の)
 ガラスの窓。(自動車の) フロントガラス。
 (時計の) ガラス蓋。(戸棚や書棚の) ガラス
 の戸。③ レンズ。កញ្ចក់រឹបកំប៉ាត់ ガラ
 スが割れてしまった。
 ※កញ្ចក់ធ្លុះ (មុខ) 鏡。
 ពង្រកញ្ចក់ធ្លុះ 手鏡。
 ※កញ្ចក់ថ្លា 透明で曇りのないガラス。
 ※កញ្ចក់បង្អួច 窓ガラス。
 ※កញ្ចក់បញ្ជាំងពន្លឺ 反射鏡。
 ※កញ្ចក់រំពាំង 凸レンズ。
 ※កញ្ចក់ជិត 凹レンズ。
 ※កញ្ចក់រឹតក 角膜。
 ពង្រពុះកញ្ចក់រឹតក 角膜を移植する。

*កញ្ចក់·វ៉ែន·ភា 眼鏡のレンズ。
 Δកម្រិត·កញ្ចក់·វ៉ែន·ភា 眼鏡のレンズの度。
 *កញ្ចក់·ស្រអាប 曇りガラス。
 *ក្រប·កញ្ចក់ 鏡の枠。
 *ន្ទះ·កញ្ចក់ 鏡に映す。鏡で見る。
 *ដាំ·កញ្ចក់ → ភោក·ដាំ·កញ្ចក់ = ភោក·
 កញ្ចក់。
 *ភោក·កញ្ចក់ = ភោក·ដាំ·កញ្ចក់。(多角
 形の脚付き盆) (←種々な色のガラス片のモザ
 イク作り)。
 *ទូ·កញ្ចក់ ①ショーケース。②(ガラスの扉
 のついた棚。鏡のついた衣裳箆)。
 *ទ្វារ·កញ្ចក់ ガラス戸。鏡付きの扉(←洋服
 だんすなどの)。
 *បញ្ជាំង·កញ្ចក់ 鏡で光を反射させて照らす。
 *បន្ទប់·កញ្ចក់ 温室。
 *បន្ទះ·កញ្ចក់ ガラス板。
 *មុខ·កញ្ចក់·នាឡិកា 時計の文字盤。
 *អាគារ·កញ្ចក់ ガラス張りのビル/建物。温
 室。
 កញ្ចន [kɑ̃nɔːn, kɑ̃nɔːnaʔ] (p. kañcana)
 (名) 金 {きん}。
 កញ្ចប់ [kɑ̃nɔp] (<ទប់) (名) ①包み(←き
 ちんと包んだもの)。小包。②タバコの箱(←
 柔らかい包み)。③(タバコなど)~箱(←柔
 らかい包み)。(エ)→កញ្ចប់·កញ្ចវ。
 បារី·មួយ·កញ្ចប់ タバコ1箱。 រូង·រើ·
 កញ្ចប់ 荷ほどきする。
 *កញ្ចប់·ឆាត 白布で包んだ遺骨(←これを骨
 壺に納める)。
 *កញ្ចប់·បារី タバコの箱。

*កញ្ចប់·ប្រៃសណីយ៍ 郵便小包。
 *កញ្ចប់·មាត់ (下品。乱暴)口。
 *កញ្ចប់·មុខ (下品。乱暴)顔。
 *កន្ទុះ·កញ្ចប់ ①小さい包み。②小包。
 *បាយ·កញ្ចប់ 弁当(←飯をバナナの葉などで
 包んだもの)。
 កញ្ចប់·កញ្ចវ [kɑ̃nɔp kɑ̃nɔw] (動) いや
 な/不愉快な/面白くない顔をする。ふくれっ
 面をする。不満で口をとがらす。
 កញ្ចញ [kɑ̃nɔɲ] (<ចាញ់) = កញ្ចញញ
 (俗)。(名) ①(蔑)いつも負けてばかりい
 る人/弱虫。②(魚) Scatophagus argus
 (H)。
 *កញ្ចញញ·គេ → អា·កញ្ចញញ·គេ いつも負
 けてばかりいる弱虫。
 *កញ្ចញញ·ចែក (カエル) アカガエル科モリ
 アオガエル, Rhacophorus nigropalmatus,
 ខ្សែកក្កាប្រាក. Limnodytes (H)。
 *កញ្ចញញ·ច្រាស (魚) Toxotes chatareus
 (H) (←背と腹にとげがある)。
 Δមេ·កញ្ចញញ·ច្រាស (言葉が荒く、とげの
 ある女をののしる語)。
 កញ្ចម [kɑ̃nɔm] (名) (ゾウを捕らえるた
 めの罟) (←木または竹の柄とロープからな
 る)。
 *ដង·កញ្ចម កញ្ចមの柄。
 កញ្ចស់ [kɑ̃nɔs] (<ចាស់) (ok. kañcas :
 人名) (形) (蔑) ①古い。②老いぼれた。
 *អា·កញ្ចស់ 老いぼれ。
 កញ្ចើង·ក [kɑ̃nɔɲ kɑː] = កញ្ចើង·ក (俗)。
 (名) うなじ。襟足。(←耳の下の部分も含

む)。

※^๙๙. ^๙๙^๙ ^๙๙ 延髓。

^๙๙๙ [kəjɔk] (<๙๙) (名) (噛みタバコ) ~口。 ^๙๙^๙ ^๙๙^๙ ^๙๙^๙ 噛みタバコ1口分。

^๙๙๙๙ [kəjɔk'ka'bat] (p. kañcuka+patta) (名) (動物学) 鞘翅目。

^๙๙๙: [kəjɔch] (名) (魚) ギギ科, *Mystus* sp., ๙๙๙๙๙ (←無鱗。口の両端と背にとげがある)。

※^๙๙๙: ^๙๙๙ (๙๙๙)。

※^๙๙๙: ^๙๙๙ (๙๙๙)。

※^๙๙๙: ^๙๙ (๙๙๙)。

※^๙๙๙: ^๙๙ (植)。

^๙๙๙๙^๙ [kəjɔk:ɲ ku:t] (-. s. guda) (名) 尾てい骨部。

※^๙๙๙^๙ ^๙๙๙^๙ 尾てい骨。

^๙๙๙๙ [kəjɔk:m] (名) 體(?)。

^๙๙๙๙ [kəjɔk:] (エ) → ^๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙。

^๙๙๙๙ [kəjɔkəw] (エ) → ^๙๙๙๙ ^๙๙๙๙。

^๙๙๙๙ [kəjɔkəe] (名) ①(船/汽車の) 汽笛。

②呼子笛。③(甲虫) (←ココヤシやサトウヤシの害虫)。クワガタムシ(?)。 ^๙๙^๙ ^๙๙๙๙^๙ 呼子笛を吹く。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙^๙ 船の汽笛。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙ (紐を引っ張って鳴らす汽笛) (←汽車や船の)。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəoŋ] (名) (ゾウの鞍) (←王侯用)。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəot] (<๙๙๙) (形) (蔑) 片足だけつま先で歩いている (←怪我している

時など)。 ^๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙ びっこをひく

(←片足だけつま先で)。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəop] (<๙๙๙) (名) ①(花などを何本か束ねた束)。②包んだもの。包み。

^๙๙๙๙ [kəjɔkɔm] (名) (自然又は人工の固まりや集まり。丸い感じ)。(糸/花/果実の)房。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙ ①花の固まり。②花のつぼみ。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙ 銀河。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙ 髪の毛の固まり。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙ (๙๙๙) (←周囲から花びらがつかむような形になっている)。

※^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙ ①(星座) すばる。②星座。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəaŋ] (エ) → ^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔ'] (エ) → ^๙๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔŋ] (名) (呪) 牛。

^๙๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔɲ] (๙๙๙๙๙の俗)。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔp] (エ) = ^๙๙๙๙๙^๙ = ^๙๙๙๙๙^๙ = ^๙๙๙๙๙^๙。 → ^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔk] (形) ①異常に背が低い。

②(特に) (男が妻にくらべて) 背が低い。

^๙๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙๙^๙ ちび。

※^๙๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙ ①みずほらしい。いやしい(態度)。衰れな(様子。態度)。(金持ちのくせに) 貧乏らしいことをする。②小さくて低い。ちびの。ちんちくりんの。

^๙๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔŋ] (エ) → ^๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙๙。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔp] = ^๙๙๙๙๙^๙。

^๙๙๙๙๙ [kəjɔkəɔ:p] (形) = ^๙๙๙๙๙^๙。 上にあがった/そった。びんと立った (←耳など)。

いかっている(肩)。 ^๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙ ^๙๙๙๙๙^๙。

^๙๙๙๙๙^๙ びんと立った耳。

※ស្មា·ក្រពើប いかり肩。

ក្រពើប [kəpɿuoc] = ក្រពើប。

ក្រពើប [kəpɿraep] = ក្រពើប。

ក្រពើប [kəpɿriəc] (名) = ក្រពើប。

(工) → ស្រែទ្រវ·ក្រពើប。

ក្រពើប [kəpɿriəp] (工) = ក្រពើប。①

→ គ្រសក់·ក្រពើប。② → គ្រសក់·ផ្អែរ·

ក្រពើប。

ក្រពើប [kəpɿraeŋ] (< គ្រស) (名) =

គ្រស。 (箕) (← 深くて目が粗いのは魚を入
れ、浅くて目が細かいのは米をふるうのに使
う) 。

※ក្រពើប·វែរ 箕。篩。

ក្រពើប [kəpɿvə] (< គ្រ) (動) ① (乱暴に、

強く) 引っ張る。ひたたく。かっさらう。引っ
つかむ。 (← 急にぱっと取る。あまり抵抗がな
く取れる) 。

※ក្រពើប·ក្រពើប = ក្រពើប·ក្រពើប。荒々し

く乱暴にひたたく / 何回も引っ張る。

※ក្រពើប·ក្រណាត 慌てる (← 下品なようす。

やったことがめちゃくちゃ) 。

△ក្រសិ·សិ·ក្រពើប·ក្រណាត (その日 1 日の暮

しのための) ほんの零細な商売。

※ក្រពើប·វត 引ったくって逃げる。

※ល្ង·ក្រពើប 引ったくりをする。

※វាយ·ក្រពើប 略奪する。

ក្រពើប [kəpɿvət] (形) ① (少しかじって) 欠

けている。 (鼻の) 欠けた。 (← 故意に行った
もの。故意でないものはក្រពើប。また、

ក្រពើបは深さを考え内部を、ក្រពើបは表面の

みを見ている) 。

※ក្រពើប·ក្រណាត 額のはげ上がった。

※ក្រពើប·ច្រមុះ 鼻の欠けた。

※ក្រពើប·ក្រណាត 歯の欠けた。

※ក្រពើប·ក្រពើប 穴ほこだらけの。あちこち欠
けている。

※ច្រមុះ·ក្រពើប ① 欠けた鼻。② 鼻の欠けた。

ក្រណាត [kəpɿvət] (動) (ウサギヤリスなどが)

びよんびよんと跳ねていく。 (馬や牛などが)

とんで跳ねて暴れる。

ក្រណាត [kəpɿvət] (t. ក្រណាត : kanc'a : < ok.

kañjā) (名) (植) アサ科アサ属タイマ、マ

リファナ、Cannabis sativa (S) , ក្រណាត。ア

サ科アサ属、Cannabis indica (H) 。

※ក្រណាត·ក្រណាត マリファナに酔っている。

※ក្រណាត·ក្រណាត マリファナ中毒になる。

※ក្រណាត·ក្រណាត マリファナに酔う。

※ក្រណាត·ក្រណាត マリファナ中毒になる。

※ក្រណាត·ក្រណាត マリファナ中毒になる。

ក្រណាត·ក្រណាត [kəpɿvət kəpɿvət] (<

ក្រណាត·ក្រណាត ?) (動) = ក្រណាត·ក្រណាត。

荒々しく乱暴にひたたく / 何回も引張る。

ក្រណាត [kəpɿvət] (形) 広く開いた。下側が

出っ張った。

※ក្រណាត·ក្រណាត = ក្រណាត·ក្រណាត。受け口。

ក្រណាត [kəpɿvət] (動) 跳ぶ (← 特に武術で構

えに入るために) 。

飛び上がる。 (名) 跳ぶこ
と。飛び上がること。
※ក្រណាត·ក្រណាត 何回も跳ぶ (← 嬉しい時な
ど。ក្រណាតよりも沢山跳ぶ) 。

※ក្រណាត·ក្រណាត 飛び上がって (踵が尻にぶ
つかるくらいに) 足を引きつける。

※*ເລາດ·ກຳກັດ·ລາດ·ກີ່ເກີນ* 右へ左へと
跳んで身構える(←特にキックボクシングの試
合を始める前のお祈りで)。

※*ປ້າຍ·ກຳກັດ* ぴょんぴょん跳んで踊って狩
りをしている様子をする。

ກຳກາບ [kəp'a:p] (動) ①(人形芝居で人形
を動かす糸を引く)。(人形を)操る。②(<
ໂລບ>)。(鳥が)さっと舞い降りる。

ກຳກັດ·ກຳກັດ [kəp'ət kəp'ət] (-
<ໂລບ>) (動) あてこする。

ກຳກັດ [kəp'ət] (形) (茶碗や鼻など) 欠け
た(←故意でなくて欠けたもの。*ກຳກັດ*は故
意)。

※*ກຳກັດ·ກຳກັດ* 穴ぼこだらけの。あちこち欠
けている。 *ຍຸສຸງ·ກຳກັດ·ກຳກັດ* (怪我
の跡が沢山あったり、鼻や耳が欠けている人)。

※*ໄຜຍະ·ກຳກັດ* 鼻のもげた。

ກຳກັດ [kəp'ət] (形) とても短い。短すぎる
(←尻が見えるスカート等)。縮んで/擦り切
れて短くなった。

ກຳກັດ [kəp'ət] (形) 小さくて可愛らしい
(人、物)。お茶目な。

ກຳກັດ [kəp'ət] (<ໂລບ>←*ໂລບ·ໂລບ*) (形)
一部分が欠けてなくなった(←ネズミのかじっ
た壁。虫のくった果物など)。空隙の開いた。
欠けて穴の開いた。(cf. *ໂກບ*に似ている
が丸くなくてよい)。

ກຳກັດ [kəp'ət] (形) ①とても使えない
程短い/短くなった。②上唇が下唇より短い。
受け口の。

※*ກຳກັດ* これ以上は使えないほど短くなっ

た。

※*ຍາດ·ກຳກັດ* = *ຍາດ·ກຳກັດ*。受け口。

ກຳກັດ [kəp'ət] (工) → *ກຳກັດ*。

ກຳກັດ [kəp'ət] (cf. *ກຳກັດ*) (形) と
ても短い。縮んで/すりきれて短くなった。

(副) 片足でぴょんぴょん(跳ぶ)。

ກຳກັດ [kəp'ət] (工) → *ກຳກັດ*。

ກຳກັດ。

ກຳກັດ [kəp'ət] (名) (貝) シャミセン
ガイ科, *Lingula* sp., *ทอยปากเป็ด* (←海貝。
平たい)。

ກຳກັດ [kəp'ət] (名) 籠。 (←野菜をいれ
る)。 *ໄຜຍະ·ສິກ·ໄຜຍະ·ຜາດ·ກຳກັດ*
*ກຳກັດ*の底にバナナの葉を敷く。

ກຳກັດ [kəp'ət] (動) (うれしくて) 飛び
回る。ぴょんぴょん飛び上がる。

※*ກຳກັດ·ກຳກັດ* 何回も跳ぶ(←嬉しい時な
ど。*ກຳກັດ*よりも沢山跳ぶ)。

※*ເລາດ·ກຳກັດ* ぴょんぴょん飛び回る/飛
び上がる/跳ね回る。

ກຳກັດ [kəp'ət] (工) ①→*ກຳກັດ·ກຳກັດ*。
②→*ກຳກັດ·ກຳກັດ*。③→*ລາດ·ກຳກັດ*。

ກຳກັດ [kəp'ət] (cf. t. *ກຳກັດ* :
krac'ət) (名) (水草) マメ科ミズオジギソ
ウ属ミズオジギソウ, *Neptunia oleracea*
(S), *ຝັກກຳກັດ* (←つる性で食べられる)。

ກຳກັດ [kəp'ət] (<ໂລບ>) (形) (真っす
ぐであるべきものが) ふくとふくれてゆがん
でいる。(紙などの切り口が) <絵1>のよう
になっている。

ກຳກັດ [kəp'ət] (<ໂລບ>) (形) すぐに

だまされる。愚かな。世間知らず／お人好しの。
មនុស្ស·ករណាត 間抜け。

※ចាញ់·ករណាត だまされる。計略にかかる。

កញ្ជី [kɑŋcəŋ] (工) → លិច·កញ្ជី.

កញ្ជី·វែជ [kɑŋcə:n cèi] (名) = កន្ទី·វែជ.
(魚) (←淡水).

កញ្ជប់ [kɑŋcɑp] (<ជប់?) (形) (借りた物
や借金を) 返せるくせになかなか返そうとしな
い。約束を守らない。だらしない。ルーズな。

※កញ្ជប់·ទ្រព្យ·វត្ថុ → មនុស្ស·កញ្ជប់·ទ្រព្យ·
វត្ថុ 他人から物や金を借りて返せるくせにな
かなか返そうとしない人。

កញ្ជារ [kɑŋcɑ:] (s. kañjara) (名) ① (書)
ゾウ。② (旧州名) (←現在はក្រចេះ州の一
部)。

កញ្ជាក់ [kɑŋcək] (<ទាក់) (名) (ピン
ロー、サトウキビ、チューインガムなどの噛み
で) 吐き出したかす／噛みかす。

※កញ្ជាក់·ស្នា ① = ស្នា·កញ្ជាក់。② (魚)
Datnioides polota (H)。

Δមនុស្ស·កញ្ជាក់·ស្នា 人間の屑。

※ស្នា·កញ្ជាក់ = កញ្ជាក់·ស្នា。キンマの噛み
かす (←吐き出したもの)。

កញ្ជាត [kɑŋcət] (<ជាតិ) (名) (蔑) ~
生まれの奴。

※កញ្ជាត·អា·ក្រ = កញ្ជាត·អា·អ្នក·ក្រ。
貧乏人生れの奴。

※កញ្ជាត·អា·ល្ងង់ 愚か者 (= 愚かな生れの
奴)。

※កញ្ជាត·អា·អ្នក·ក្រ = កញ្ជាត·អា·ក្រ。

កញ្ជាយ [kɑŋcəi] (工) → កញ្ជាះ·កញ្ជាយ。

កញ្ជាស·មាត់ [kɑŋcuh məən] (名) (皮膚病)
(←白くなり、汗をかくと痒くなる)。

កញ្ជា [kɑŋcəu] (<ជ) (形) (蔑) ① 礼儀を
わきまえぬ無作法な。② (特に) 客に冷淡で歓
迎しない。

កញ្ជើ [kɑŋcə:] (ok. kañje, je) (cf. t.

ក្រះក្រៃ : krac'ə:) (名) ① (箎) (←直径 3
0cm位で主として米を入れる)。② (量の単
位) (←កញ្ជើ 1 杯分。約 60 リットルに相当。

កញ្ជើ > លី > កន្ទី 順で容量が 2 分の 1 になっ
ていく)。

※កញ្ជើ·ជ័រពោះ (箎) (←底は四角で足があ
る。上部は丸いのも四角いのもある)。

※កញ្ជើ·រដរ = លី·រដរ。裁縫箱 (←籠)。

※កញ្ជើ·បាយ·ដាច (木) フウチョウソウ科
フウチョウボク属マライケーパー, Capparis
micracantha (S) (←幹には小さいとげがあり、
熟した実は食べられる)。

※កញ្ជើ·ដាយ (箎) (←下部は方形で上部は
円形)。

※រដង·កញ្ជើ もみあげ。もみあげの髪。②
(髮形) (←箎をかぶせてはみ出た部分の髪を
切る)。

※ប៉ុន·កញ្ជើ → ស្រី·មាត់·ពោះ·ប៉ុន·កញ្ជើ
腹の大きい女性 (←太って。妊娠して)。

※លង់·កញ្ជើ → លិច·កញ្ជី·លង់·កញ្ជើ 壊
滅／倒産する。

កញ្ជើ [kɑŋcəh] (動) ① (<វែជ) 米を少
量 (←ほんの 1 握りか 2 握り) 搗く。② そろっ
と引っ張る。

※កញ្ជើ·ច្រក → មនុស្ស·កញ្ជើ·ច្រក 貧

乏な/その日暮しの人。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ស្រូវ}$ = $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{អង្ករ} = \text{រដះ} \cdot \text{ស្រូវ}$.
米をほんの少量搗く。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{អង្ករ}$ = $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ស្រូវ}$.

ក្រំពោះ [kəpəc:] (エ) → $\text{រដឹង} \cdot \text{ក្រំពោះ}$.

ក្រំពោះ : [kəpəcəh] (<ខ្លះ) (名) = $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$
= $\text{ខ្ញុំ} = \text{ខ្ញុំ} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ (人)。奴隷(←借金のかた
としての。1892年に廃止された)。

($\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ または $\text{ខ្ញុំ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ を使用することが
多い)。(エ) → $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ 。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ = ក្រំពោះ .

$\Delta \text{ខ្ញុំ} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ = ក្រំពោះ .

$\Delta \text{រដឹង} \cdot \text{ការ} \cdot \text{ជា} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ ① 奴隷が働くように
いい加減に働く。② 奴隷の様にこき使われて働
く。

$\Delta \text{មី} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ この阿魔!。

$\Delta \text{អា} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{រត}$ この野郎!。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{បាទ} \cdot \text{រដឹង}$ ① 奴隷。② (比) 傀儡。走
狗。

※ $\text{ខ្ញុំ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ = ក្រំពោះ .

$\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ [kəpəcəh kəpəcəi] (<ខ្លះ
ខាយ) (動) (財産を) 浪費する。無駄使い
する。湯水のように使う。(形) 散らかってい
る。乱雑な。 $\text{មនុស្ស} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ 浪費
家。

ក្រំពោះ [kəpəcəi] (形) ① 何をやってもうま
くいかない。ついていない。(←人)。② 汚く
むさ苦しい。みすぼらしい。

ក្រំពោះ [kəpəcə:m] (形) おくびょうな。自分
に自信のない。(身分が低い等で) おどおとし
ている。 $\text{អង្ករ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ 怖がって縮こまっ
ている。

て座っている。

ក្រំពោះ [kəpəcəp] = ក្រំពោះ 。 = ក្រំពោះ 。

ក្រំពោះ [kəpəcəp] = ក្រំពោះ 。

ក្រំពោះ [kəpəcəw] (名) ① 発疹。② 麻疹。

$\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ 発疹が出る。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ → $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ (麻疹
の発疹が外に出ないで体内に出る)。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{ជំ}$ 麻疹(?)。

※ $\text{រដឹង} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ (ツタ) (←麻疹の葉にす
る)。

ក្រំពោះ [kəpəcək] (名) (魚) (←ドジョウ
に似ている)。

ក្រំពោះ [kəpəcəoc] (< ជ្រួច ← $\text{កំ} \cdot \text{ជ្រួច}$) =
 ក្រំពោះ 。($\text{កំ} \cdot \text{ជ្រួច}$ の俗)。

ក្រំពោះ [kəpəcə:p] (形) ぴんと立った。

ក្រំពោះ [kəpəcəiəc] = ក្រំពោះ 。(名) ①
(鳥) (←小さい)。② (プレイベーン州の郡
名)。

ក្រំពោះ [kəpəcəiəp] = ក្រំពោះ 。

ក្រំពោះ [kəpəcəiəw] (動) (馬/鳥/狼/大
勢の人が) 騒ぐ。鳴く。いなく。

※ $\text{រដឹង} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ 大声を出す。歓呼/ときの
声をあげる。(馬/鳥/大勢の人が) 大声をあ
げる。騒ぐ。

ក្រំពោះ [kəpəcək] (動) ① (水を) ばしゃ
ばしゃはねる。② 大声でとなり付ける。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{បាទ} \cdot \text{បាទ}$ 浴びせかけるように
大声でとなりつける。

※ $\text{ក្រំពោះ} \cdot \text{លាយ} \cdot \text{ក្រំពោះ}$ (ミキサーなどで) 激
しく掻き混ぜる。

ក្រំពោះ [kəpəcəiŋ] (名) キツネ。

※*ដុច*・*ក្រណាត់* → *ក្រវែស*・*វៃភ្នក*・*ដុច*。

ក្រណាត់ キツネのような目つきだ (= 目つきが悪い)。

ក្រណាល [kɔŋcrò:l] (動) ① 飛びはねる (←

同じ所でびよんびよんと)。暴れる。暴れ狂う。

(馬が荷物や人を振り落とそうとして) 立ち上

がって跳ねる。② (火/情熱/怒りが) 燃え盛

る。(病気が) やまにさしかかる。大変重くな

る。③ (火を) 燃え盛らせる。 *វិធី*。

ក្រណាល 怒って暴れる。 *វត៌*。

ក្រណាល 暴れて走る。

※*ក្រណាល*・*វៃភ្នំ* あおいで火勢をさかんにする。

※*ក្រណាល*・*វៃភ្នំ* ① (スカートが) まくれ上がる。② 泡を出して沸騰する。波が泡立つ。

※*ពុះ*・*ក្រណាល* ① 沸騰する。湯がぐらぐら沸く。② 頭にかーとくる。抑制ができなくなる。

ក្រណាត់ [kɔŋcrèəŋ] (名) (麦わらのようなもの)。ストロー。

កញ្ជុស [kɔŋc'u:h] (<*ល្អ* *ស*) (動) ① (ゾウが地面を) 蹴ったり擦ったりして削る。②

(多くの小魚の鱗をとるために、容器に入れて

ささらにした竹などで軽くつく)。

※*កញ្ជុស*・*ត្រី*・*ប្រហុក* (*ប្រហុក*にする魚の鱗をとるために、頭を取って鹽などに入れ、先端をささらにした竹で軽くつく)。

កញ្ជា [kaŋja:] (p. kaññā) (名) ① 乙女 (=

12, 3才から上の未婚の女性)。② ~ 嬢。③

= *វៃ*・*កញ្ជា*。

※*កញ្ជា*・*កិត្តិយស* ① (賓客などに花束などを捧げる役の女性)。② ミス (ユニバース。日

本)。

※*កញ្ជា*・*ឯក* ① ミス (日本。ユニバース)。②

すぐれた乙女。 *កញ្ជា*・*ឯក*・*កម្ពុជា* ミス・

カンボジア。

※*វៃ*・*កញ្ជា* = *កញ្ជា*。陽暦9月。

កញ្ជា *រាសី* [kaŋja'ri:səi] (p. kaññā+rāsī)

(名) 乙女座。処女宮。

កដាសុំ *នាគតិ* [ka'da'so't'i'ək'ət] (ps. kaṭa+

sudhā+*gata*) (名) 漆喰。

កដិប្ប *វេស* [ka'deppa'tè:h] (p. kaṭi+

padesa) (名) 腰部 (← 臀部の上)。

កដិពន្ធ [ka'de'pən] (s. kaṭi+bandha) (名)

① ズーン。地帯。② スピンドル。

※*កដិពន្ធ*・*នាទ្រីក* = *មណាល*・*នាទ្រីក*。(同一標準時を用いる地帯)。

កដតិ [katt'akki?] (p. kaṭṭha+aggi) (名) 薪

/ 木を燃やした火。

កថិន [ka't'ən] = *កថិន*。

កណារ *រាគ* [ka'na'rò:k] (ps. kaṇa+roga)

(名) (眼病) トラホーム。

កណាសិលា [ka'na'se'la:, kan-] (p. kaṇa+

silā, s. *śilā*) (名) 花崗岩。御影石。

កណាណ [ka'na'no:] (ps. kaṇa+aṇu) (名)

卵殻。

កណិកសិលា [ka'ne'ka'se'la:] (s. kaṇika+

śilā) (名) 白粒岩。

កណិការ [ka'ne'ka:] (p. kaṇikāra) (名)

(植) モクセイ科インドヤコウボク,

Nyctanthes arbortristis, *ព្រៃវិហារី*。アオギ

リ科シマウラジロノキ属, *Pterospermum*

acerifolium (H)。(← ジャスミンのような芳

香のある白い花が咲く)。

ကံသင်္ဂ [konda'ɔ̃] ㊦ (p. kaṅṅaka) (名) ① (せむしの背中やハンモックに寝ている人の尻の部分等の様に、ぼっこりと出っ張った物/部分)。② (クロマーを丸めて端を縛ってオタマジャクシのような形にしたもの)。(形) ぼっこりとこぶのように出っ張っている。㊦ (<သင်္ဂ) (名) ① 穴 (←水やほこりがたまる)。② (木) ヒユ科, *Cyathula genicolata* (H) (←葉は食べられる)。(形) (水やほこりのたまるような) 凹みのある。

※ကံသင်္ဂ·ဇိန္တု 悲しく/残念に思う。

※သိ·ကံသင်္ဂ 鞍部。

※တက·က·ကံသင်္ဂ ぼっこりと出っ張った喉のこぶ。

ကံသင်္ဂနိယာ [konda'saɲja:, kanda'-] (p. kaṅṅaka + sañña) (名) コンマ (=「,」)。

※ဇိန္တု·ကံသင်္ဂနိယာ セミコロ (=「;」)。

※သင်္ဂ·ကံသင်္ဂနိယာ コンマを打つ。

ကံသင်္ဂ [konda:p] (名) ① = သိန္တု·ကံသင်္ဂ。② = သိ·ကံသင်္ဂ。③ 枚 (← သိန္တု·ကံသင်္ဂ を数える単位)。
သိန္တု·တက·၁၀၀·ကံသင်္ဂ (ニッパヤシの葉を並べて縛ったもの 100 枚)。

※သိ·ကံသင်္ဂ = ကံသင်္ဂ。(သိန္တု·ကံသင်္ဂ を作る時にあてる竹)。

※သိန္တု·ကံသင်္ဂ = ကံသင်္ဂ。(ニッパヤシの葉、わら、カヤ等を並べ、その一端に竹をあてて縛りつけてむしろのようにしたもの) (←屋根や壁を作るのに用いる)。

※သိန္တု·တက·ကံသင်္ဂ (ニッパヤシの葉を並べ

て縛ったもの)。

ကံသင်္ဂ [konda:c] (<သင်္ဂ) (蔑) (名) ぼろぼろに破れたもの。(形) ぼろぼろに破れた。

ကံသင်္ဂ [konda:c] (<သင်္ဂ) (蔑) (形) 切れた。(名) (糸/紐/布の) 切れ端。(糸。紐。布) 屑。

※ကံသင်္ဂ·ကံသင်္ဂ 切れてぼろぼろになった。

※ကံသင်္ဂ·လေ 貧しくて惨めな。

※ခွေ·ကံသင်္ဂ 切れた糸。糸屑。

※လှေဗေဇ·ကံသင်္ဂ (アリ) (←大きい。噛まれるととても痛い)。

ကံသင်္ဂ [kondaɲ] (形) もつれた (糸。髪)。生まれつき縮れて束になっている (髪)。(名) = ကံသင်္ဂ·တြာယ。

※ကံသင်္ဂ·တြာယ = ကံသင်္ဂ。(生まれつき髪の一部が縮れているもの) (←このような髪を持つ人は刀で切りつけられても切れないとか、撃たれても弾丸に当たらないとか信じられていて、切ろうとしない)。

※တက·ကံသင်္ဂ မွှေ 束になる。

※တက·ပုလ·ကံသင်္ဂ မွှေ 束になっている。

※လက်·(တက)·ကံသင်္ဂ (一部分だけが絡まってとかせない髪) (←この髪を持つ人は超能力を持つといわれている)。

ကံသင်္ဂ [kondaɲ] (<ကံသင်္ဂ) (名) ① (稲、草、カヤなど細いものの束) (←普通は直径 20 cm 位だがカヤは大きくする)。② (籠や箆のトウや竹で巻いてある) ふち。(箆のふちのような) 輪。③ ~ 握り。ဇိန္တု·သင်္ဂ·ကံသင်္ဂ 束にする。

※ကံသင်္ဂ·ဇိန္တု 世界を取り巻いているふ

ち(←仏教世界観の。その先は何もない)。

※*ကံကပ်*·*ဇာဒ်* ①(ツタ)(←薬用)。②

*ဇာဒ်*のふち/へり。③=*ကော*·*ကံကပ်*·

ဇာဒ် (牛の第1胃)。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ* ①握り締めた手。げんこつ。②

(敵の)手(に落ちる)。掌中(にある)。掌

握下。 *ကော*·*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 手中/掌中

/掌握下にある。 *လ*·*ကံကပ်*·*ဝါဒ*·

လူ 敵の手中に落ちる。

※*ကံကပ်*·*မံဒါ* 打撲傷のくま。傷口のふち。

※*ကံကပ်*·*လှေ* 稲束。 *ကံကပ်*·*လှေ*·*မ*·

မိ 稲束を積んだもの2つ。

※*ကံကပ်*·*လှေ* (皮膚病)(←輪状になっ

た田虫のよう)。

※*ကော*·*ကံကပ်* = *ကော*。 (牛などに踏ませて

脱穀するために並べた稲束)。

ကံကပ် [konda:] (←*ကော*) (名) = *ဝါဒ*·*က*·

ကံကပ်。 錐。

ကံကပ် [konda:l] (名) ①(ok. kantal,

kantal)。 (両端でない部分)。中央部。(道

/池/日の当たる場所/日/年/野原/森の)

真ん中。真ん中(のコース/建物)。中央。

(円の)中心。②中立。③(州名)カンダル。

(形)平均的な。中程度の。

※*ကံကပ်*·*ကံ* 都心。市の中心部。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 中甸。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ*·*ဝါဒ* 川の水流の中心部。

ဝါဒ·*ကံကပ်*·*ဝါဒ*·*ဝါဒ* 川の流れの中心に

近い所を航行する。

※*ကံကပ်*·*ဇာဒ်* → *ကော*·*ကံကပ်*·*ဇာဒ်*

ちえっ(駄目だ。失敗だ)。

※*ကံကပ်*·*ဇာဒ်* 群衆/人々の中で。人々

/公衆の面前で。

※*ကံကပ်*·*ဇာဒ်* 眉間。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 日の当たる所。ひなた。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ* ①道路の中央。②途中。中途。

ကံကပ်·*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 途中で脱落する。

ကံကပ်·*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 中途/途中で。

ကံကပ်·*ကံကပ်*·*ဝါဒ* 途中で。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ*·*ဝါဒ* → *ကံကပ်*·*ဇာဒ်*·

ကံကပ်·*ဝါဒ*·*ဝါဒ* 通り道に乱雑に邪魔にな

るように座る。

※*ကံကပ်*·*ကံကပ်*·*ကံကပ်* 眉間。

※*ကံကပ်*·*မ* 真正面。

※*ကံကပ်*·*ယ* 夜半。真夜中。

※*ကံကပ်*·*ဝါဒ* ①戸外。露天。②(周りに木

などがなくて)見晴らしの良い場所。ささぎる

物のない/ひらけた所。

ကံကပ်·*ကံကပ်*·*ဝါဒ* ①あらわな。むき出し

/丸見えの。②人前/公衆の面前で。③戸外に

いる。
※*ကံကပ်*·*လှေ* 沖。外海。大海(の真った

だ中)。

※*ကံကပ်*·*လှေ* (カンダル州の郡名)。

※*ကံကပ်*·*မ* 夜なか。

※*ကံကပ်*·*မ* = *ကံကပ်*·*မ*·*မ*。 空中。

※*ကံကပ်*·*မ* = *ကံကပ်*·*မ*·*မ*。 空中。

※*ကံကပ်*·*မ* 中年。

※*ကံကပ်*·*ကံကပ်* 中程がふくれた(柱)。

※*ကံကပ်*·*ကံကပ်* カンダル州。

※*ကံကပ်*·*ကံကပ်* 中サイズ。

※*ကံကပ်*·*ကံကပ်* (カンボジアのクメール人)。

※**ខ្សាច់កណ្តាល** (カンダル州の郡名)。
 ※**វិទ្យុកណ្តាល** (道路の)中央分離線。センターライン。
 ※**គណនេយ្យកណ្តាល** 中央会計。
 ※**ចានកណ្តាល** (皆のための料理を盛って食卓の中央に置かれている皿) (←ここから各自が欲しいだけ取って食べる)。
 ※**ចំកណ្តាល** ちょうど真中。中央。
 ※**ចំណុចកណ្តាល** 中心点。
 ※**ជា់កណ្តាល** → **នៅជា់កណ្តាល** 中立である/いる。
 ※**ជាន់កណ្តាល** 中流。中級(コース。官吏)。
 ※**ឈ្មួញកណ្តាល** 仲買商人。
 ※**ជន់កណ្តាល** 川の中流(←水がゆっくり流れている部分)。
 ※**ដីកណ្តាល** 堆積土。
 ※**ដប់ន់កណ្តាល** 中心部。
 ※**ឋានកណ្តាល** 人間界(←天国界と地獄界の中間)。
 ※**តានកណ្តាល** (音楽)中音。メディアント。
 ※**ថ្នាក់កណ្តាល** 中流階級。
 ※**ទ័ពកណ្តាល** 中央部隊(←前線部隊及び後方部隊に対して)。主力部隊。
 ※**ទិសកណ្តាល** (「上」と「下」の2方角)。
 ※**នៅកណ្តាល** ①真ん中にある。②途中である。
 ※**ផ្លូវកណ្តាល** 中道。中庸。
 ※**ពាក់កណ្តាល** ①(長さ/量/金/道のり/スピードの)半分。半ば。②真中。中央。
 ※**ពាក់កណ្តាលខ្លួន** 半身。
 ※**ពាក់កណ្តាលជន់** → **ទន់ពាក់កណ្តាល**

ជន់ 半旗。
 ※**ពាក់កណ្តាលថ្លៃ** 半額。
 ※**ពាក់កណ្តាលផ្តាច់ព្រ័ត្រ** 準決勝。
 ※**ពាក់កណ្តាលផ្លូវ** 途中で。
 ※**ពាក់កណ្តាលយប់** 夜半。真夜中。
 ※**ពាក់កណ្តាលរង្វង់មូល** 半円。半円形。
 ※**ពាក់កណ្តាលអធ្រាត្រ** 夜半。真夜中。
 ※**ពារកណ្តាល** = **ថ្ងៃខ្ចាត់** = **រំនប់ត**。正月の第2日(←**ថ្ងៃសង្ក្រាន្ត**「正月」は3日あって、第1日を**ថ្ងៃចូលឆ្នាំ**、第2日を**ពារកណ្តាល** = **ថ្ងៃខ្ចាត់** = **រំនប់ត**、第3日を**ថ្ងៃឡើងស័ក** = **ពារឡើងស័ក**と言い、この第3日に新しい年号になる)。
 ※**ភាគកណ្តាល** 中心。
 ※**មុមកណ្តាល** 中心角。
 ※**ម្រាមកណ្តាល** 中指。
 ※**យុគកណ្តាល** 中世。
 ※**រន្ធន់កណ្តាល** 的の中心。
 ※**រដ្ឋាភិបាលកណ្តាល** 中央政府。
 ※**រយៈកណ្តាល** 経度。
 ※**រយៈកណ្តាល** 真ん中が破ける/裂ける。
 ※**វ័យកណ្តាល** 中年期。
 ※**ស្ថានកណ្តាល** 人間界。
 ※**ស្ថានីយកណ្តាល** センター。中央局。
 ※**អាជ្ញាកណ្តាល** (直接利害関係のない第三者である判定人)。審判。調停者。仲裁人。審判人。鑑定人。
 ※**អាជ្ញាធរកណ្តាល** 中央機関。
 ※**អ្នកកណ្តាល** ①審判。②仲介人。仲介者。
កណ្តាល [kɑndah] = **ក្រដាស** (俗)。(動) くしゃみをする。(名) くしゃみ。

កណ្តឹង [kəndəŋ] (<ដឹង) (ok. kantyān : 人

名) (名) 鈴 (←牛の首につけるのや, 寺の屋根の端などのも). 呼鈴. (自転車の) ベル.

※កណ្តឹង·គោ = កណ្តឹង·ដំរី.

※កណ្តឹង·ដំរី = កណ្តឹង·គោ = កប្បកាស·ព្រៃ.

① (植) ワタモドキ科コクロスベルマム属キバナワタモドキ, *Cochlospermum gossypium*

(S). ② (ツタ) トウダイグサ科,

Coelodiscus annamiticus (S) (←葉は食べられる).

※កណ្តឹង·អាសន្ន 非常ベル.

※គ្រាប់·កណ្តឹង 鈴の舌.

※ច្រច់·កណ្តឹង 呼び鈴を押す.

※ញាក់·កណ្តឹង 鈴を振る.

※ស្រែ·កណ្តឹង (セミ).

※អង្រួន·កណ្តឹង 鐘を振って鳴らす.

កណ្តម·វៃច [kəndəm c'aep] (間) = កណ្ត·

វៃច. あらまあ!. ああ(びっくりした).

កណ្តក [kəndok] (名) 脾臓(?). (副)

(<កក?). ずしり/どすと(重い).

※ធ្ងន់·កណ្តក ①非常に重い. (思ったより)

ずしりと重い. ②(病気が)重くなる. ③目方が加わる.

※ធ្ងន់·ចិត្ត·កណ្តក 大きい心配事や悩みで心が重い.

※ធ្ងាក់·ថ្លើម·កណ្តក 心臓が止まるほど(驚く. 悲しむ).

កណ្ត [kəndao, kəndol] (名) ネズミ. ឆ្មា·

លេច·កណ្ត នコがネズミを捕えようと隙を

うかがう. ឆ្មា·សង្រួប·កណ្ត នコがネズ

ミをばと押える.

※កណ្ត·បង្កើត (ネズミ).

※កណ្ត·ប្រមេ (ネズミ) (←小型).

※កណ្ត·វៃច (ネズミ).

※កណ្ត·វៃល្អៗ たくネズミ, *Phyzomys badius*, ចំណ.

※កណ្ត·សង្រួប (ネズミ) *Bandicota savilei*, ញូណ.

※កណ្ត·សំឡី tengjikネズミ, *Cavia porcellus*, ញូណ.

※កណ្ត·វៃស្រ (野ネズミ) *Rattus argentiventer*, ញូណ (←稲を荒らす).

※កណ្ត·ឡើង·ភាជ្យ → ឆ្មា·មិន·នៅ.

កណ្ត·ឡើង·ភាជ្យ ネコがいないとネズミ

が威張る. 上司がいないと下役が威張る. 鬼の居ぬ間に命の洗濯.

※កិន·កណ្ត ①ネズミの子. ②(リンパ腺の腫れ). ぐりぐり.

※ត្រចៀក·កណ្ត → ផ្សិត·ត្រចៀក·កណ្ត

(キノコ) キクラゲ属アラゲキクラゲ,

Auricularia polytricha, កើតញូ. チャワンタ

ケ科ヒロチャワンタケ属, *Peziza auricula* (H).

※ធ្ងញ់·កណ្ត = មូសិក្ស័. (子音文字の上につける「」).

※អង្រួប·កណ្ត នズミとり (←罫).

※អាចម៍·កណ្ត (木) カキノキ科カキノキ属, *Diospyros cambodiana* (S).

កណ្ត [kəndo:ŋ] (形) ①尾の無い/切れた.

②切れて短くなった. 短く切った(髪).

※វៃច·កណ្ត (尻) (←尾がない).

※មាត់·កណ្ត = មាត់·នាឡ. (ニワトリ).

※*សក់កណ្តឹង* (髪型) (←兵士のように短く刈り上げる)。
 ※*ស្វាភណ្ណ* (サル)。
កណ្តប [kɑndɔ:p] (名) バッタ。イナゴ。
 ※*កណ្តបស្រែ*: カマキリ。
Δរកណ្តបស្រែ: (踊り)。
 ※*រន្ទាញកណ្តប* (織機の部分)。
កណ្តយ [kɑnduoi] (名) 女性器 (←極めて下品語)。
កណ្តិ [kɑndiə] (エ) ①→*កណ្តិខ្ពស់*。②→*កណ្តិទ្រូង*。
កណ្តិខ្ពស់ [kɑndiə k'mo:t] (名) = *បន្លែរខ្ពស់*。(ツタ) (←とげがある。若い葉は食べられる)。
កណ្តិទ្រូង [kɑndiə tiə] (名) (動物) ヒヨケザル科ヒヨケザル, *Cynocephalus variegatus*, ហ្វាង (←ムササビに似ていて飛ぶ)。
កណ្តិនី [kɑndiəŋ] (名) ①(水草) (←青い花が咲く。食べられる)。②サファイア (→*នព្វន្ត*「9種の宝石」)。
 ※*កណ្តិនីស្វាយ* アメジスト。
 ※*កណ្តិនីស្វាយ* サファイヤ。
កណ្តិត [kɑndiət] (動) (水がめ等を腰骨のすぐ上の部分に当てて抱えて持つ)。(名) (果物をとる道具)。
 ※*កណ្តិតក្រន្ត* (果物をとるための籠付きの棒)。
 ※*កណ្តិតក្អម* ①甕を腰に当てて持つ。②(腰骨のすぐ上の部分)。
 ※*កណ្តាក់កណ្តិត* 慌てる (←下品なようす。

やったことがめちゃくちゃ)。
 ※*កណ្តិតកណ្តិត* 間に合わせの。臨時の。
កណ្តិន [kɑndiəŋ] (<*កណ្តិន*?。cf. *រន្ទាញ*) (形) いっぱい入った。～でいっぱい。
 ※*កណ្តិតកណ្តិត* (首がなくなる位) 丸々と可愛く太った。ぼちゃぼちゃした。
 ※*កណ្តិតកណ្តិត* 固太りではち切れそう。
កណ្តិន [kɑndiə] (名) (アリ) (シロアリ) *Termes bellicosus*。又は, *Termes fatalis* (H) (←蟻塚を作る)。
កណ្តិន [kɑndiəw] (名) 鎌。
 ※*កណ្តិនកាត់* (鎌) (←日本の鎌に似ている)。
 ※*កណ្តិនត្រកង* (鎌) (←カンボジア特有のr字形)。
 ※*កណ្តិនស្វាយរាជ្យ* 稲が凶作だ。米が不作だ。
 ※*កណ្តិនកាត់* (r字形の鎌の稲を引っ掛けるための出っ張り)。
កណ្តិន [kɑnde:ŋ] (名) ①(甕などの底に沈めた泥)。②固くて粘り気のある土地。③(ハチ)。
 ※*កណ្តិនដី* ①沈めた泥。沈没物。②堆積土。
Δលិចកណ្តិនដី 没落して再起不能だ。
 ※*ដីកណ្តិន* 沖積土。堆積土。
កណ្តិន [kɑndaɛŋ] (エ) ①→*កណ្តិនកណ្តាច* = *កណ្តាចកណ្តិន*。②→*កណ្តាចកណ្តិន*。
កណ្តិនកណ្តាច [kɑndaɛŋ kɑndaoc] (-

(名) 直角三角形の斜辺。

កណ្ណជីនា [kənhaːciˈniːə] (p. kaṅhājīnā)

(名) カンハージナー (= 大本生経のウェーサ
ンタラ太子の王女)。

កត់ [kot] ㊦ (cf. t. កញ្ចៈ:kòt) (動) ①書き
留める。記録する。②記入する。③定める。定
めて記録しておく。④(相違に)気づく。㊧

(動) ① (cf. t. កកៈ:kòt)。妨げる。止める。
押えて動けないようにする。②(水が穴などに)

溜まる。កត់និទេសនៃសេចក្តីទទួល
ត្រង់រឹមទំព័រ 認知した内容をページの欄外
に注記する。

※កត់កំណត់ メモをとる。

※កត់កំឡុងពេល 期間を定める。

※កត់ចងចិត្តនឹង～ ～に気を引かれる。

※កត់ចុះ 書き留める。記入する。

※កត់ឈ្មោះ 名を書く(←登録するためな
ど)。

※កត់ត្រា メモする。(石碑などに)刻む。

記録しておく。កត់ត្រាទុក (会議の)
記録をとる。メモしておく。

※កត់ពន្ធ (各個人の支払うべき。徴集済みの)
税額を記録する。

△អាជ្ញាកត់ពន្ធ 徴税吏。

※កត់ភិន 身元を確認する。識別する。

※កត់សម្គាល់ ①気付く。観察する。(重要さ
を)認める。(相異に)注意を払う。②銘記す
る。

△គួរ(ឲ្យ)កត់សម្គាល់。注目/注意すべき
(人物。事件)。目ざましい(進歩)。

※កត់ហេតុ 記録を取る。(犯罪の)現場調査

をしてノートする。កត់ហេតុនោះជា

ចំណាំ そのことを注/備考として書いておく。

△សៀវភៅកត់ហេតុ メモ帳。

△សេចក្តីកត់ហេតុ 調査報告書。

△សេចក្តីកត់ហេតុអំពីបទល្មើស 犯罪
の調書。

※បញ្ហាកត់ 鋭い知恵。

កតញាតិ [ka'taŋpu'ta:] (p. kataññutā) (名)
恩を知ること。報恩感謝の念。

※មានកតញាតិចំពោះ～ ～の恩を知る。

កតញាតិធម៌ [ka'taŋpu'ta't'əə] (p.
kataññutā+s. dharma) (名) 恩を知る気持ち。

កតញា [ka'taŋpu:] (p. kataññu) (形) ①恩
を感じる。恩に対して感謝することを知ってい
る。②親孝行/忠義な。(名) 恩を知る人。忠
義/親孝行な人。

កតញាធម៌ [ka'taŋpu't'əə] (p. kataññu+s.
dharma) (名) 恩を感じること。親孝行の気
持ち。

កតវេទិតា [ka'ta've'ti'ta:] (p. kataveditā)
(名) 恩返しをする/しようとする人。

កតវេទិនី [ka'ta've'ti'ni:] (p. katavedinī<
katavedin). (កតវេទិនីの女性形)。

កតវេទិ [ka'ta've'ti:] (p. katavedi<katavedin)
(名) 恩返しをする人/男。報恩者。

កតាវសាន [ka'ta'veə'sa:n] (p. kata+
avasāna) (名) ①懇願。嘆願。②訴訟。

※កតាវសានបរិណិ 民事訴訟。

※កតាវសានពាណិជ្ជកម្ម 商業上の訴訟。

※កតាវសានអាជ្ញា 刑事訴訟。

កតិកា [ka'te'ka:] (p. katikā) (名) 協定。協

約。規約。

កតិកាភេទ [ka'te'ka'p'è:t] (p. katikā + bheda)
(名) 解除。解消。破棄。(←契約/協定/規約の)。

កតិកាសញ្ញា [ka'te'ka'saɲɲa:] (p. katikā + saññā) (名) 条約。協約。協定。

※កតិកាសញ្ញាសហព័ន្ធ 連邦協約。

កតិបការៈ [ka'to'pa'ka'rèə'] (p. kata + upakāra) (名) 援助者。

កត្តា [katta:] (p. kattā < kattar) (名) 要因。フクター。

កត្តិក [katdək] (p. kattika) (名) = ភតិក
= វិទ្ធ·ភតិក。陰曆12月。វិច្ឆ័ត្ត·វិហាថ្ម。
វិទ្ធ·ភតិក ភតិក月上弦3日。

※ខ្យល់វិទ្ធ·ភតិក (冬に吹く冷たい北風)。

កត្តិកបូក្ស [katte'ka'ruuk] (p. kattika + s.
ṛkṣa) (名) ភតិកの月。

កត្តាថក [katto'vi'əca'ka', -co'] (p. kattu
+ vācaka) (名) (文法) 能動態。

កត្តាថកកិរិយា [katto'vi'əca'ka'ke'ri'ya:] (p.
kattu + vācaka + kiriyā) (名) =

កត្តាថកកិរិយាសព្ទ。(文法) 能動態動詞。

កត្តាថកកិរិយាសព្ទ [katto'vi'əca'ka'ke'ri'ya'sap]
(p. kattu + vācaka + kiriyā + s. śabda). =
កត្តាថកកិរិយា。

កថា [ka't'a:] (ps. kathā) (ok.) (名) ①
演説。話。②(ភោថា)の俗。(金や銀の薄板
に呪文を書いて丸めたお守り)(←首, 手首,
腰などにつける)。

※កថាបរិយាយសាស 後書き。

※កថាមុខ 序文。序言。

※កថាសណ្ឋប 問答。談話。親しい会話。

កថាខណ្ឌ [ka't'a'k'an] (p. kathā + khaṇḍa)
(名) ①バラグラフ。②款(←「節」の下。

「条」の上)(cf. មាតិកា > ជំពូក >

កថាភាគ > វិជ្ជក > កថាខណ្ឌ > មាត្រា) ③
(第3条の2)号(←មាត្រា「条」の下)。

កថាខណ្ឌ·ទី·៤·វិទ្ធ·មាត្រា·៣០ 第30条
4号。

កថាន [ka't'a:n] (?) = កថានៈ。(数) (1
0の26乗。មហាកថានៈの千万分の一)。

កថានៈ [ka't'a'nèə'] = កថាន。

កថាបទ [ka't'a'bot] (ps. kathā + pada) (名)
前書き。

កថាភាគ [ka't'a'p'i'ə'] (ps. kathā + bhāga)
(名) 節(= ជំពូក「章」の下, វិជ្ជកの上)
(cf. មាតិកា > ជំពូក > កថាភាគ > វិជ្ជក >
កថាខណ្ឌ > មាត្រា) 。

កថាមគ្គ [ka't'a'mèə'] (p. kathā + magga)
(名) 話の進め方。説法の筋書き。

កថាវត្ថុ [ka't'a'vətt'o'] (p. kathā + vatthu)
(名) ①話題。議論のテーマ。②論事(=
វិគ្គយិដក「三蔵経」のអភិធម្មបិដក「論蔵」
の第5) 。

កថាវសាន [ka't'a'veə'sa:n] (ps. kathā +
avasāna) (名) ①(話)の終り。②終りの言
葉。後書き。

កថិន [ka't'ən, ka't'en] (p. kathina) = កថិន。
(名) カテナ布(= កថិនកាល「カティナ期間」
に僧に寄進する布) 。

※កាល·កថិន = វិគ្គិន·កថិន。カティンの贈
り物を台の上に広げる(←儀式の一部) 。

※*ក្រែនភ័ន* = *កាលភ័ន*.

※*ថតភ័ន* កាតេនា 僧に献じる (← *ភ័នកាល* 中に).

※*បុណ្យភ័ន* កាតេន祭 (= 僧に布地を寄進する儀式で, *ភ័នកាល* 「カティナ期間」 中に行われる).

ភ័នកាល [ka't'e'na'ka:l] (p. kaṭhina+kāla) (名) កាតេន期間 (= 陰曆 1 月下弦 1 日から同 1 2 月上弦 1 5 日迄).

ភ័នទាន [ka't'e'na'ti'ən] (p. kaṭhina+dāna) (名) កាតេន祭の寄進物. កាតេនា.

កន [kɔ:n] (ok. kan: 人名) (cf. t. កំណុំ: kō:n) (名) グループ (← 人の). 仲間.

※*កនភ័ន* (我等に対して) 彼等. 連中.

※*កនយើង* (彼等に対して) 我々. 味方.
ទៅកនយើង 仲間よ, さあ行こう.

※*ភូកន* ① 親友. 兄弟分. ② 仲間. ③ 古くからの友人.

កនកមណល [ka'nēə'ka'm'ōnd'ɔ:l] (ps. kanaka+maṅḍala) (ok. cf. kanaka 「金」) (名) 金輪 (← 仏教の世界観では, *វាយុមណល* 「風輪」 が虚空に浮いており, その上に *ជលមណល* 「水輪」 が乗っている. その水輪の上に乗っているのが金輪で, その上に我々の住む世界がある. なお, この金輪と我々の世界の境が「金輪際」である).

កនិដ្ឋភតិនី [ka'nitt'a'p'ēə'ki'ni:] (p. kaniṭṭha+bhagini) (名) 妹.

កនិដ្ឋភាគិនេយ្យ [ka'nitt'a'p'i'ək'i'nei] (p. kaniṭṭha+bhāgineyya) (名) 妹の息子.

កនិដ្ឋភាតា [ka'nitt'a'p'i'ətɑ:] (p. kaniṭṭha+

bhātā<bhātar) (名) 弟.

កនិដ្ឋា [ka'nitt'a:] (p. kaniṭṭhā<kaniṭṭha) (名) ① (王. 書) 妹. ② (特に) 末妹. ③ (雅) (愛する女性への呼び掛け).

※*វីកវិកនិដ្ឋា* (呼び掛け) (← 愛する女性へ).

※*សុទ្ធសាលភ័និដ្ឋា* (音楽) 短音階.

កន្លវី [kɔntɔ: rɔ:] (cf. ភ័វី) (名) = *ភ័វី*. (果物をとるための道具) (← 棒の先に籠がついている).

※*ប្រហុកកន្លវី* (食べ物) (*ប្រហុក*).

កន្ល [kan] (工) (p. kanta). → *សក្កកន្ល*.

កន្លង [kɔntɔ:ŋ] (古) = *កន្លង*.

កន្លាញ [kɔntɑ:ŋ] (形) 背が低くて横に大きい. ずんぐりした. 横にみっともなく太っている. (とても太っていて) がにまたで歩いてみっともない. *ធ្លាត់កន្លាញ* 横にみっともなく太った.

កន្លាវ [kɔntɑ:, kɔntɑ'rēəʔ] (p. kantāra) (名) ① 危険や苦しみの多い道. 難路. (← *ចោរកន្លាវ* 「盗賊が故の難路」, *អមនស្សកន្លាវ* 「幽霊や化け物が故の難路」, *វាទ្យកន្លាវ* 「猛獣が故の難路」, *និរទកកន្លាវ* 「水が無い故の難路」, *ទុក្ខកន្លាវ* 「食物が無い故の難路」などがある). ② 砂漠.

កន្លាវា [kɔntɑ'rɔətt'i'ə] (p. kantāra+addhā<addhan) (名) 危険の多い道. 難路.

កន្លាវវី [kɔntɑ:w rɑ:w] (工) (cf. ភាវវីវី). = *ភាវវីវី*. → *ស្រមោចកន្លាវវី*.

កន្លញកន្លញ [kɔntəŋ kɔntəŋ] (< *ភ័ញ*.

ភ្នំ) (形) 背が低くて固太りの。短くて筋肉のがっしりした太い(足)。(←バランスがとれていないのでみっともないというニュアンス)。 គាត់ភ្នំភ្នំភ្នំ ずんぐりした。

ភ្នំ [kəntəl] (形) (人/動物/物が)ととも/不釣り合いに低い。 ទាបភ្នំ 不釣り合いに低い(←人。動物。物)。

※ភ្នំអរិល 不釣り合いに低い。

ភ្នំ [kəntəp] = ភ្នំ (話)。(名) ①ベレー帽。トルコ帽。②ジャック(←トランプの)。

(形) 小さくて低い。ベちゃんこの。(←潰されたものでなく、元来その形のもの)。

※ភ្នំសិរី (歩兵の略帽)。

※ភ្នំភ្នំ べレー帽。トルコ帽。

ភ្នំ [kəntəm] (エ) → ភ្នំភ្នំ (ウ)。

ភ្នំ [kəntəp] (<ភ្នំ←ភ្នំ) (形) ととも小さい/低い。ちびの。

※ភ្នំភ្នំ 背が低くて固太りの。短くて筋肉のがっしりした太い(足)。(←バランスがとれていないのでみっともないというニュアンス)。

ភ្នំ [kəntop] (形) ととも短くて小さくて/背が低くて可愛い。(名) ~塊。 ភ្នំ 1塊。

※ភ្នំ (ウ = ភ្នំ) とともភ្នំ。

※ភ្នំ 小さくて可愛い(←丸い感じ)。

ភ្នំ [kəntol] (<ភ្នំ←ភ្នំ) (形) ずんぐりした。

※ភ្នំ (ツタ)(←実は食べられる)。

ភ្នំ [kənto:] (名) (食器を入れる蓋付の容器)。

※ភ្នំ (水草)(←食べられる)。

※ភ្នំ (金属製の容器を2, 3個重ねたつる付きの弁当箱)。

ភ្នំ [kəntəi] (<ភ្នំ←ភ្នំ)

(形) 冷淡な。(他人のことに構わない。関心を払わない)。

※ភ្នំ ぶいと怒る(←たいてい帰って行ったりする)。

※ភ្នំ 冷淡な/自分には関係無いという態度をとる。

※ភ្នំ (ភ្នំにはほぼ同じ)。

①無視する。知らぬ顔をする。そっけない。無関心/冷淡/ぶっきらぼうな。②(特に)目上を無視する。

※ភ្នំ 気乗りのしない。ものうげな。

ភ្នំ [kəntuə] (<ភ្នំ) (蔑) (名) ちび。(形) ちびの。 ភ្នំ ちび。

ភ្នំ [kəntiət] (エ) → ភ្នំ

ភ្នំ [kəntəh ləŋ] (名) (虫) ガムシ科, ងង (←水生で大きいゴキブリ位の大きさ。色は黒く羽は固い。塩をつけ炒めて食べる)。

ភ្នំ [kəntəe rae] (名) ①カブト虫(?)。②(踊り)。③(曲)。

※ភ្នំ いつまでも同じ所に立っている(←待っている。時間をつぶしている)。

※ភ្នំ (暇つぶしに。目的なく) ゆっくりぶらぶらと歩く。

ភ្នំ [kəntəm] (名) (もち米と豆とをヤシの葉で固く巻いて蒸した物)。ちまき。

※ភ្នំ ぎゅうぎゅう/すし詰めだ。

กัฏฐ์ [kəntəŋ] (名) ① (小型の箎) (←量器としても使う)。② (容量の単位) (←実際の量は地方によって¹升の2分の1, 3分の1, 4分の1と異なり, それぞれ, 9, 6, 4, 5 リットル位に相当)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (<กัฏฐ์) (名) (織機の糸をぐるぐる巻くための心棒。[¹]するための棒)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (名) = กัฏฐ์ (籠) (←サトウヤシの葉柄の裏をはいだものを編んだもので魚や果物を入れる。下げるための紐がついている)。

กัฏฐ์ [kəntro:ŋ] (名) ① (<กัฏฐ์) 濾過器 (←漏斗の口にフィルターを付けたもの)。コーヒー濾し (←布製)。目の細かい篩。② たも網。③ (大型トカゲ) Varanus (H) (←水辺に棲む)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (箎) (←ココナツミルクを搾る)。

กัฏฐ์ [kəntro:] ①油こし。②(魚)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (果物をとるための籠付きの棒)。

กัฏฐ์ [kəntro:p] (名) (魚) ナンディイ科, Pristolepis fasciatus, ปลาหมอกข้างเหยียบ。

กัฏฐ์ [kəntro:i] (エ) → กัฏฐ์ [kəntro:i] (衣)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (<กัฏฐ์) (形) ①ほろほろの(家。服。自転車)。ひとくがたがたの。

②だぶだぶの(スポン。スカート)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (家。服。自転車)。破れちぎれた。ずたずたの。

กัฏฐ์ [kəntro:] (動) = กัฏฐ์ ① (ネット) クレスや手に握っている物など, ちょっと力を

いれないと取れない物, 引っか掛かる物などを強く/早く/急に引っぱる)。ぐいと力を入れて引く/引ったくる。(cf. すりりと抵抗なくとれるのは¹ぬい)。②痙攣する。กัฏฐ์ [kəntro:] 筋肉が痙攣する。

กัฏฐ์ [kəntro:] ①ひくひく痙攣する。

กัฏฐ์ [kəntro:] = กัฏฐ์ [kəntro:] 何回も乱暴に引っ張る。抵抗をおして強奪する。

กัฏฐ์ [kəntro:] = กัฏฐ์ [kəntro:]

กัฏฐ์ [kəntro:] (紐を引いて梭を走らせる装置のついた織機)。

กัฏฐ์ [kəntro:] ①ぐいと引く。②痙攣する。ひきつけをおこす。

กัฏฐ์ [kəntro:] (形) (髪が) ほさほさの。(草) ぼうぼうの。荒れほうだいの。

กัฏฐ์ [kəntro:] (エ) → กัฏฐ์ [kəntro:]

กัฏฐ์ [kəntro:] (名) (草) Raphis trivialis (H) (←実はスポンなどにくっつく。皮膚につくとかゆい。この世で伴侶が得られずに死んだ女性の魂が実に宿る, と言われている)。

กัฏฐ์ [kəntro:] (cf. กัฏฐ์ [kəntro:] (形) ひとくぼろぼろの(家。服。自転車)。破れちぎれた。ずたずたの。

กัฏฐ์ [kəntro:] (形) 岩の多い。ごつごつした。

กัฏฐ์ [kəntro:] (形) 岩の多い。ごつごつした。

กัฏฐ์ [kəntro:] (エ) → กัฏฐ์ [kəntro:] = กัฏฐ์ [kəntro:]

กัฏฐ์ [kəntro:] (cf. t. กัฏฐ์ [kəntro:] (名) 鋏。

กัฏฐ์ [kəntro:] 爪切り鋏。

※*កន្ត្រៃ.កាត់.លួស* ワイヤ切り。
 ※*កន្ត្រៃ.កាត់.សក់* バリカン。
 ※*កន្ត្រៃ.ចៀរ.ដែក* ブリキ鋏。
 ※*កន្ត្រៃ.បត់* (カンボジア式鋏?)。
 ※*កន្ត្រៃ.ស្លឹក* (中国式鋏?)。
 ※*កីង.កន្ត្រៃ* (書名) (←倫理, 道德を説いて
 いる)。

※*ជាន់.កន្ត្រៃ* 裁断師。
 ※*ត្រចៀក.កន្ត្រៃ* (鋏の刃の合わせ目)。
 ※*ទង.កន្ត្រៃ* ①(菓子)。②(舟のへさきの飾
 り)。③(鳥) オウチュウ科, *ករង្កោង*。

※*ទង.កន្ត្រៃ.ត្រចៀក* 耳たぶ(?)。

កន្ត្រៃង [kontraoŋ] (動) ①飛びつく。飛び上
 がって(つかむ。かみつく)。(犬や子供が嬉
 しくて)すがりつく。まとわりつく。②バウン
 ドする。*វ៉ែង.កន្ត្រៃង.ខាំ* 犬が飛び掛かっ
 て噛む。

កន្ត្រៃង [kontraon] (形) (怖くて)小さくなっ
 ている。ちぢこまっている。

កន្ត្រៃ [kontrom] (エ) (cf. *ត្រៃ←កក.ត្រៃ*)。
 →*កក.កន្ត្រៃ*。

កន្ត្រៃ.ទឹក [kont'a:n tuək] (名) 洗面器。

កន្ត្រៃក [kont'ək] (名) ①(動物)リスモドキ科,
Tupaia glis, *ករង្កោង* (←リスに似ている。小
 さい)。

※*ជន់វ៉ែ.កន្ត្រៃក* (虫) (←木に住む。成長して
 時がくると*កន្ត្រៃក*に変身すると言い伝えられて
 いる)。

កន្ត្រៃង [kont'aəŋ] (名) 上顎。口蓋。

កន្ត្រៃក [kont'aok] (動) 汁を取るために潰す
 (?)。

កន្ត្រៃ [kont'ao] (cf. *ថៅ*) (ok. kathor)
 (名) 痰壺。

※*កន្ត្រៃ.នោម* 小便壺 (←夜間使用するため
 に家の中に置いておく)。

※*កន្ត្រៃ.បត់.ជើង* 便器 (←持ち運びできる
 もの)。

※*កន្ត្រៃ.បត់.ជើង.តូច* しびん。

※*ចាន់ហ្គាន់.កន្ត្រៃ* (俗) (蔑) 侍従。

កន្តក់ [kont'ək] (p. kuṅdaka) = *កណ្តក់*。

(名) ①糠。②斑点。雀斑。(エ) ①→*កន្តក់*。

កន្តង (俗) = *កន្តក់.កន្តញ*。②→*កន្តក់*。

កន្តញ。

※*កន្តក់.អង្វាន់* ①不満。②不満な。不満で落ち
 着かぬ。

កន្តក់.កន្តង [kont'ək kont'əŋ] (*កន្តក់*。
*កន្តញ*の俗)。

កន្តក់.កន្តញ [kont'ək kont'əŋ] (<*ទក់*。
ទញ) = *កន្តក់.កន្តង* (俗)。(動) 何度も
 何度もしつこく繰り返して要求する/頼む/せ
 がむ (←そして地団太を踏むようにしたりす
 る)。

កន្ត.ជ័ង [kont'ə:n cèi] (名) = *កញ្ជន់.ជ័ង*。
 (魚) (←淡水)。

កន្តន់.បាក់.ក [kont'ən bak ko:] (名) =
មហាត្រៃសាល。(呪) 熟したバナナ。

កន្តប [kont'ə:p] (名) ①ぼろ布。雑巾。②(<
ខប?)。ふんどし。(形) ①貧乏な。②卑劣
 な。狡い。

※*កន្តប.កន* おむつ。

※*កន្តប.ជ័ង* 雑巾。

※*កន្តប.អាថ* = *កណ្តាត់.អាថ*。おむつ。

ស្បែកក្របីអាថ៌ におむつをする。

※ក្របី 貧乏な。

※យន្តក្របី = អា.ក្របី。

※វណ្ណក្របី ①ほろをまとう。②ふんどしを締める。

※ហាលក្របី → ស្លាហាលក្របី 夕焼け。

※អា.ក្របី = យន្តក្របី。(ベトナム人をのしる語)。

កន្សែង [kəntɔːɨ] (ps. kuṅḍala) (名) (昔の女性のイヤリング) (←今は古典舞踊の踊り手がつけている)。

កន្សែងក្របី [kəntɔː tu:k] (名) = កាមក្របី。(虫) タガメ科タガメ, *Lethocerus indicus*, แมงกา。

កន្សែង [kəntɔːɛc] (古) = កន្សែង。

កន្សែង [kəntɔːɛl] (エ) ①→កន្សែង.គ្រីអា. ②→កន្សែង.អា.ល。

កន្សែង.គ្រីអា.ក [kəntɔːl trɔːaː] (名) = បន្ទា.គ្រីអា.ក. 蕁麻疹。

កន្សែង.អា.ល [kəntɔːl ʼa:l] (名) = ស្លា.កន្សែង.អា.ល。(草) イラクサ。

កន្សែង [kəntɔː] (名) (草) アカザ科アカザ属, *Chenopodium hybridum* (H) (←熱冷ましになる)。(エ) (<ខ្លី) → កន្សែង.កន្សែង。

កន្សែង.រីង [kəntɔːŋ ri:ŋ] (名) (水草) (←食べられる)。

កន្សែង [kəntɔːp] = កន្សែង。

កន្សែង [kəntɔːh] (形) 一面にぶつぶつと赤く腫れあがっている (←漆にまけた時のように)。(名) (一面に赤く腫れあがったぶつぶつ)。

※កន្សែង.កន្សែង (一面にできた赤いぶつぶつ)

つ)。

កន្សែង [kəntɔː] (名) ①(動物/魚/鳥/彗星)の尾。②(ろうそく/タバコ)の燃えかす。

③果梗. 葉柄。④(単位) (←干魚ひとつ)。

គ្រី.ស្បែក.គ.៣.កន្សែង 干魚3尾。ស្បែក.កន្សែង 犬が尾を上巻く。

※កន្សែង.កណ្តាល → សក់.កន្សែង.កណ្តាល (襟首にとがった形に生えている髪)。

※កន្សែង.កោះ = ច្រើង.កោះ。(中州の川下側)。

※កន្សែង.ក្រោក → រង្វង់.កន្សែង.ក្រោក クジャクの羽根の模様。

※កន្សែង.ក្រពើ (植) ユリ科ユリアロエ属アロエ, *Aloe indica*. ユリ科ユリアロエ属トウロカイ, *Aloe vera* = *Aloe chinensis*, ว่านหางจระเข้。

※កន្សែង.ខ្សែន → ស្បែក.កន្សែង.ខ្សែន ①尾が丸く巻いている犬 (←このような犬は悪い犬と信じ、誰も飼おうとしない) ②邪悪極まりない人。

※កន្សែង.ខ្សែន → ស្បែក.កន្សែង.ខ្សែន 尾が丸く巻いているネコ (←悪いネコだとして飼おうとしない)。

※កន្សែង.ខ្សែន キシセルの吸口。

※កន្សែង.ស្បែក → ស្បែក.កន្សែង.ស្បែក 尾がまいている犬。

※កន្សែង.ចក្រ (草) (←花がオオカミの尾に似ている)。

※កន្សែង.ស្បែក (草) *Parietaria cochinchinensis urtius* (H) (←花が犬の尾に似ている)。

Δគ្រី.កន្សែង.ស្បែក (植) アオギリ科ヤンバ

ルゴマ属キダチヤンバルゴマ, *Helicteres*

hirsuta (S).

※*ကဏ္ဍိယ*・*မိတ်* ①言葉に詰まる。②(草)フウチョ

ウソウ科フウチョウボク属, *Capparis*

flavicans. ムラサキ科キダチルリソウ属ナンバ
ンルリララ, *Heliotropium indicum* (H),

ว่านวงช้าง.

△*ပြေလဲ*・*ကဏ္ဍိယ*・*မိတ်* (植) (*ပြေလဲ*).

※*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* ①→*ဝါချ*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* = *ဝိသက*・

ကဏ္ဍိယ・*ကြိတ်*. 蝶形ねじ (←指で回せるようになっ
ている). ②→*ဝါကာ*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* (鋸).

※*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* ①(目の)星。②べたべたした
膿/目やに。

△*ကြိတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* = *ဝါက*・*ကြိတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・
ကြိတ်. 星の入った目。星目。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ကျော်* ろうそくの燃え残り。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တုတ်* ①タバコの吸い殻。②シガレット
ホルダー。

△*တုတ်*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*တုတ်* 灰皿。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ပိ* → *ကြိတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ပိ* 金魚。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ပြာ* (ある種のサルの前脚の間にある
尾状のもの?)。

※*ကဏ္ဍိယ*・*မာတ်* 彗星の尾。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ* → *ကြိတ်*・*တံ*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・
တံ 急流。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ* ①→*ဝါ*・*တံ*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*တံ* (船
のマストの燕尾形の旗)。②→*တံ*・*မာတ်*・
တံ (虫)シミ(紙魚)。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* ①目尻。②視線。③視線が届く
所。視界。

△*တံ*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* = *တံ*・*မာတ်*・*ကြိတ်*・
ကြိတ်.

ちらっと見る。一瞥する。

△*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* 視界から消えていく。見
えなくなる。

△*တံ*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* 視界から消える。

△*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* 視界の外に出る。見えなく
なる。

△*မာတ်*・(形容)・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* ①(他人を見
張っていて、その人が見る所について見る)。

②横目で見る。

△*မာတ်*・*ကြိတ်*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* 横目で見る。流し目
を送る。

△*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ကြိတ်* ちらっと流し目を送る。
ウインクする。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ယ*・*ပျော်* → *တံ*・*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ယ*・
ပျော် 飛行機の尾翼の方向舵。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ*・*မာတ်* (扇のような形のゾウの
尾) (←これを持つゾウは縁起がよいとされ
る)。

※*ကဏ္ဍိယ*・*ပိတ်* (胎盤の一部) (←鉤状をなし
ており、後産として出きらずに胎内に残ると、
産婦は病気になると言われている)。

△*မာတ်*・*ကဏ္ဍိယ*・*ပိတ်* (腰に挟んだサンボットの
端、ブラジャーの紐、スカートの裾の折り返し
などがほつれて出てきているもの、などのよう
な)本来隠されているべきものがのぞいて見え
ている。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ*・*ပျော်* (木)クスノキ科クス
ノキ属, *Cinnamomum* (S)。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ*・*ပျော်* (植) (S)。

※*ကဏ္ဍိယ*・*တံ*・*ပျော်* (木)クスノキ科クスノキ属,
Cinnamomum? (S)。